

# 「貯蓄と消費に関する世論調査」(平成10年)の結果

貯蓄広報中央委員会  
(事務局 日本銀行情報サービス局)

## (はじめに)

「貯蓄と消費に関する世論調査」は、全国の普通世帯における貯蓄や借入金の実態、生活設計や家計管理の状況などを把握し、暮らしに役立つ金融経済情報のサービスや、合理的な生活設計の勧めなど貯蓄広報活動に役立てることを目的として、貯蓄広報中央委員会が昭和28年以降毎年1回実施しているものである。

以下では、平成10年調査の結果を紹介するとともに、金融ビッグバン等に関する設問について、①貯蓄保有額別、②世帯主年齢階層別、③貯蓄種類の選択基準(貯蓄種類を選択する際に、安全性、収益性、流動性のいずれを最も重視するか)別のクロスデータを掲載した。

## (今回調査の要綱)

1. 調査時期……………平成10年6月26日(金)～7月6日(月)
2. 調査対象……………全国6,000世帯(普通世帯<世帯員2名以上の世帯>)
3. 回収率……………71.5%(4,287世帯)
4. 調査対象世帯の抽出方法……………層化2段無作為抽出法
5. 調査方式……………留置面接回収方式

## (要 旨)

### I. 貯蓄の状況

本年の1世帯当たり平均貯蓄保有額は1,309万円と、前年(1,347万円)に比べ減少した。種類別にみると、株式など有価証券が大きく減少した。貯蓄の目的としては、引き続き「病気・災害への備え」、「老後の生活資金」、「こどもの教育資金」が上位を占めている。

### II. 金融の現状に対する認識と行動

#### (安全性と収益性)

貯蓄商品を選択する際の基準としては、「収益性」の減少が続く中、「安全性」が平成7年以降4年連続で増加している。こうした中、貯蓄の安全性を高める行動については、これまでに実際に行動した世帯が約3割、先行き行動したいと考える世帯は約6割に達している。また、預金保険制度の存在を知っている世帯は、前年よりも大幅に増え、全体の3分の2を占めるようになったほか、安全性と表裏の関係にある自己責任意識についても、前年と比べ「外貨預金」や「新しいタイプの金融商品」などを中心に、総じて高まっている。さらに、金融機関に対する要望についても、「金融機関の経営内容の開示」等に対する要望が高まりつつある。

#### (金融システム問題)

当面の金融情勢に対する評価については、「現状と変わらない」が約半分、「さらに悪化する」が約4割を占めている。一方、自らの取引先金融機関に対しては、「破綻の不安はない」との受け止め方が多い。また、経営内容に不安を持つ世帯ほど、経営内容を確認したいとの希望は強

いものの、実際に確認した世帯は少なくなる傾向があり、確認経験があるのは全体でみても1割に満たない。

#### (新しい金融の流れ)

ビッグバンの認知度は前年比大幅に上昇し、過半数に達した。ビッグバンを知っている世帯では、ビッグバンによって金融商品や金融機関サービスの多様化が進むとする世帯が増えているが、自らの生活への影響については、「金融機関の経営内容に格差が生じるなど負担がかかる」と受け止める世帯が、「日本経済が活性化するなど好影響を与える」とする世帯をやや上回っている。

### III. 消費と借入

手取り収入、消費支出とも1年前に比べ減少した。また、借入金については、借入金のない世帯などを含めた全世帯の平均借入残高が507万円と前年をやや上回っている。

### IV. 生活の設計

生活設計を立てている世帯は、ここ1～2年間で1割以上減少した。また、生活設計の基礎となる家計簿の記帳率も減少を続けている。

老後の生活を心配している世帯は、8割以上に増加している。その理由としては、「年金や保険が十分でない」、「再就職による収入が見込めない」といった回答が増加している。このうち、年金については、将来の年金改革などを展望し、「年金だけではゆとりがない」が約7割にも達し、その不足分は就労収入や貯蓄でまかなうといった自助努力の必要を考える世帯が増えている。

## (調査結果)

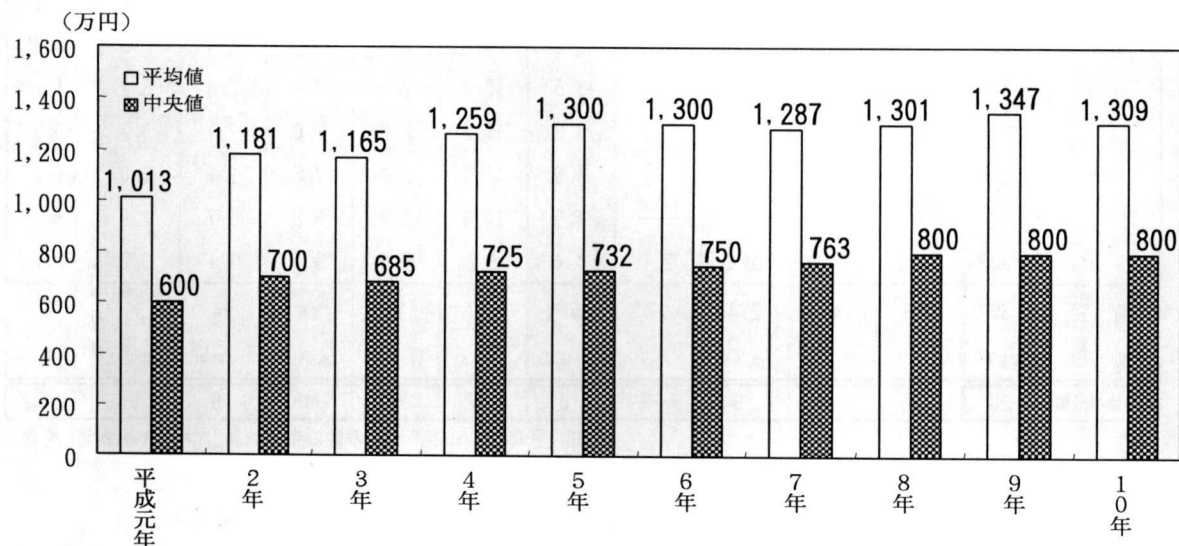
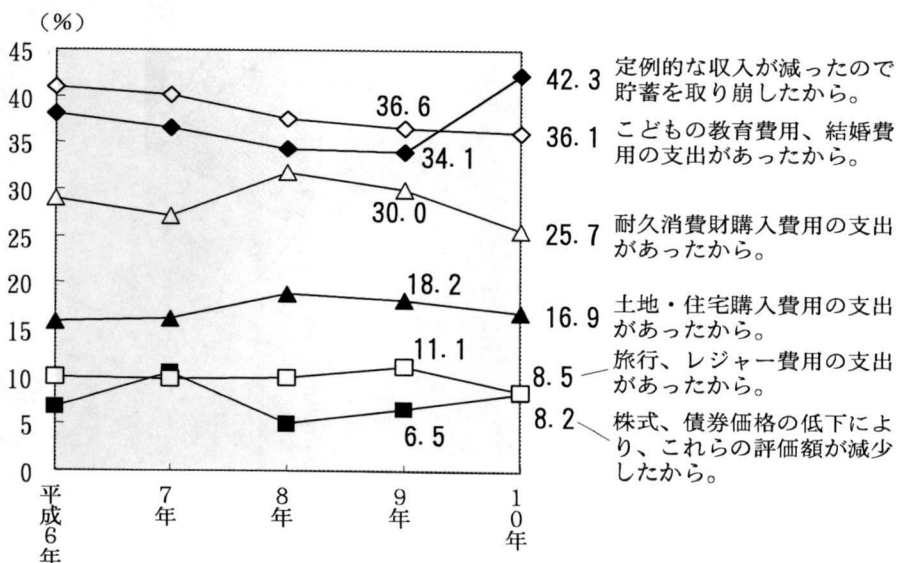
## I. 貯蓄の状況

## 貯蓄保有額

本年の1世帯当たり平均貯蓄保有額は1,309万円と、前年(1,347万円)に比べ小幅の減少となり、過去5年間の平均(1,307万円)並みとなった。貯蓄保有額が減った理由としては、①定例収入減による貯蓄取り崩し、②株式などの相場下落に伴う保有有価証券の評価額の減少が挙げられている。この間、中央値は3年連続で800万円となった。

種類別には、株式など有価証券が大きく減少したのをはじめ、ほとんどの種類において保有額は減少した。また、今後重視する貯蓄種類としては、預貯金が67.0%となっている。

(図表) 貯蓄保有世帯の貯蓄保有額(1世帯当たり)

(図表) 貯蓄保有額が減った理由  
(1年前に比べ貯蓄保有額が減った世帯、複数回答)

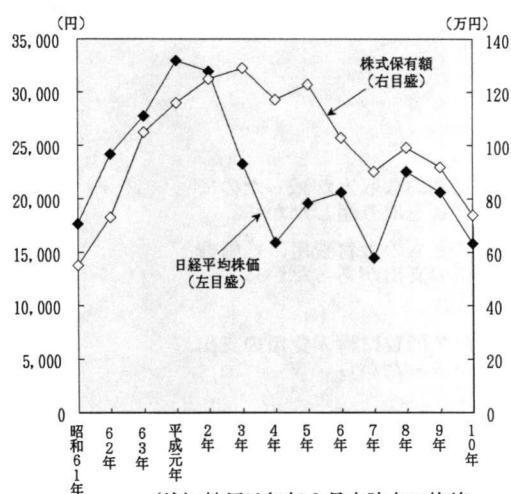
(図表) 貯蓄の種類別構成比

(%)

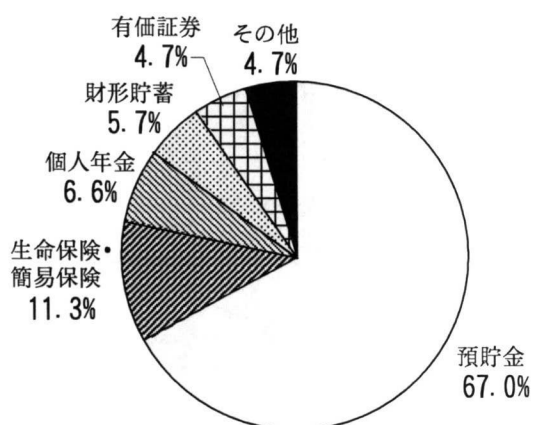
	貯蓄総額	預貯金	金貨・ 信託	簡易生命 保険	損害 保険	個人 年金	有価 証券	債 券	株 式	投資 信託	財形貯蓄	金融 商品 その他
平成元年	1,013	48.1	5.7	19.9	2.3	1.7	18.0	3.0	11.5	3.6	3.2	1.2
2	1,181	46.5	5.5	19.4	1.8	2.7	16.2	2.8	10.6	2.8	2.8	5.2
3	1,165	51.1	6.0	18.8	1.9	2.1	16.0	2.1	11.1	2.8	3.0	1.2
4	1,259	54.7	6.0	18.2	1.6	2.1	13.6	2.1	9.3	2.2	2.7	1.1
5	1,300	50.2	6.4	19.8	2.0	3.5	14.4	2.5	9.5	2.4	2.9	0.8
6	1,300	51.6	5.9	19.8	1.8	3.5	12.8	2.5	7.9	2.4	3.2	1.2
7	1,287	53.8	5.4	20.0	1.9	3.9	11.3	2.2	7.0	2.1	3.2	0.5
8	1,301	55.0	4.2	20.2	—	4.6	11.8	2.1	7.6	2.1	3.0	1.2
9	1,347	56.1	3.8	21.0	—	4.8	10.3	1.8	6.8	1.7	2.9	1.1
10	1,309	57.3	3.5	20.9	2.1	4.4	8.2	1.5	5.7	1.1	3.0	0.7
平成10年の 実績(万円)	1,309	750	46	274	27	57	107	19	74	14	39	9
(前年比)	(△ 2.8)	(△ 0.7)	(△ 9.8)	(△ 3.2)	( — )	(△ 12.3)	(△ 23.0)	(△ 20.8)	(△ 19.6)	(△ 39.1)	(±0.0)	(△ 40.0)
前年比増減額	-38	-5	-5	-9	—	-8	-32	-5	-18	-9	0	-6

(注) 平成8・9年の「その他の金融商品」は「損害保険」を含む。

(日経平均株価と株式の平均保有額)



(図表) 今後重視する貯蓄種類





## 貯蓄の目的

貯蓄の目的としては、これまでと同様に「病気・災害への備え」、「老後の生活資金」、「こどもの教育資金」が上位を占めている。このうち、「老後の生活資金」は 55.3%と既往最高を更新し、また、このところ低下気味に推移していた「病気・災害への備え」は 73.3%と平成3年来の水準まで上昇している。

(図表) 貯蓄の目的

(%)

	病気・災害の備え	老後の生活資金	こどもの教育資金	住宅取得・増改築資金	こどもの結婚資金	旅行・レジャー資金	耐久消費財の購入資金	納税資金	遺産を子孫に残す	貯とくして目的は不安いが
平成 元年	80.5	51.5	40.9	17.7	17.3	7.0	11.1	5.7	—	28.7
2	74.3	52.4	40.0	18.3	17.3	8.1	12.0	5.2	—	25.7
3	73.3	50.5	40.6	21.7	16.8	13.1	11.6	4.1	—	23.7
4	68.3	48.2	36.0	17.8	14.9	11.6	9.8	4.2	—	23.0
5	70.9	50.1	35.8	19.1	16.4	12.5	10.1	3.5	3.6	23.5
6	69.4	51.6	34.6	19.4	14.5	12.3	10.2	4.2	2.7	24.2
7	71.2	52.9	33.9	20.0	14.7	12.1	10.2	4.3	3.1	25.2
8	69.7	53.9	33.1	20.3	14.4	11.7	10.8	4.9	3.1	25.9
9	69.1	53.2	31.8	19.7	13.4	12.3	9.8	4.9	4.0	24.9
10	73.3	55.3	33.0	19.0	12.6	11.8	10.4	4.2	2.8	24.5

## Ⅱ. 金融の現状に対する認識と行動

(安全性と収益性)

### 貯蓄商品の選択基準

貯蓄商品を選択する際に最も重点をおくことについて、「安全性」「流動性」「収益性」の3基準に分けてみると(注)、「流動性」「収益性」がともに小幅減少となった一方、「安全性」は平成7年以降4年連続で増加している。この間、「安全性」に関わる項目について個別にみると、「取扱金融機関が信用できるから」との回答はほぼ横這いである一方、「(その商品の)元本が保証されているから」が著増する格好となっている。

(注) ここでは、「安全性」「流動性」「収益性」に関わる項目をそれぞれ下記のように分類。

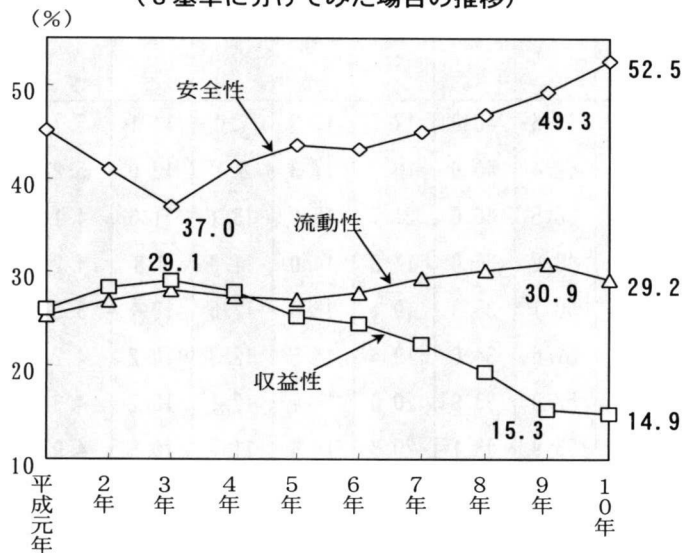
安全性:「元本が保証されているから」、「取扱金融機関が信用できて安心だから」

流動性:「少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから」、「現金に換えやすいから」

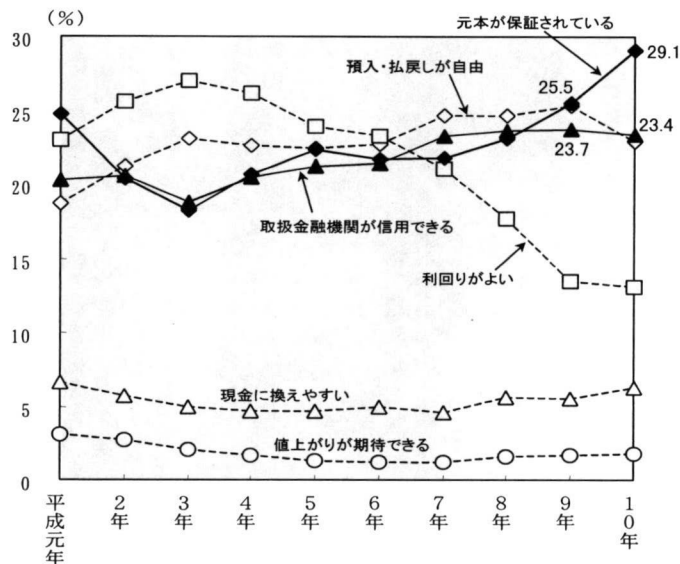
収益性:「利回りがよいから」、「将来の値上がり期待できるから」

(図表) 貯蓄商品を選択する際に重視すること

(3基準に分けてみた場合の推移)



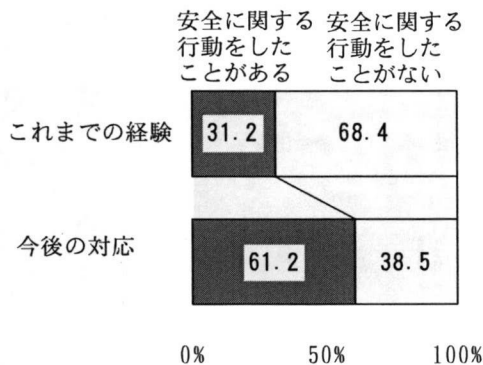
(個別項目についてみた場合の推移)



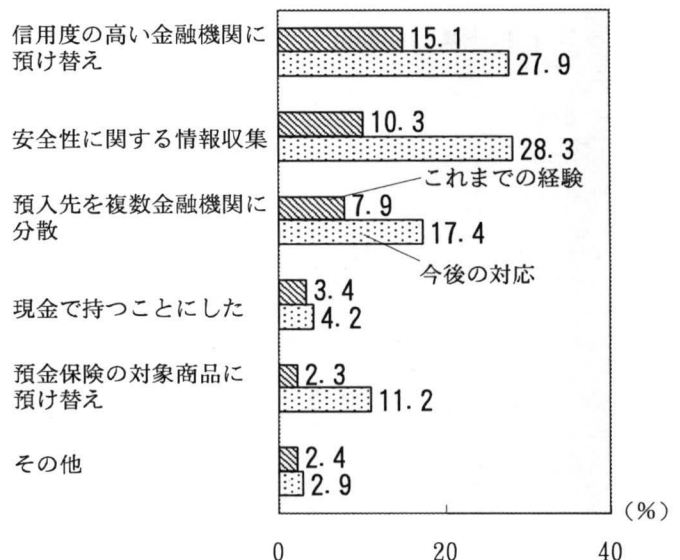
## 貯蓄を安全にするためにとった行動と今後の対応

貯蓄をより安全にするために「何らかの行動をとった」世帯は約3割。また、「今後何らかの行動をとるつもり」とする世帯は約6割に達した。具体的な行動内容を見ると、これまでの経験については「信用度の高い金融機関への預け替え」が最も多いが、今後の対応については「信用度の高い金融機関に預け替え」と「安全性に関する情報収集」が多く、両方とも3割近くに達している。

(図表) 安全に関する行動の経験と今後の対応



(図表) 具体的な行動内容(複数回答)



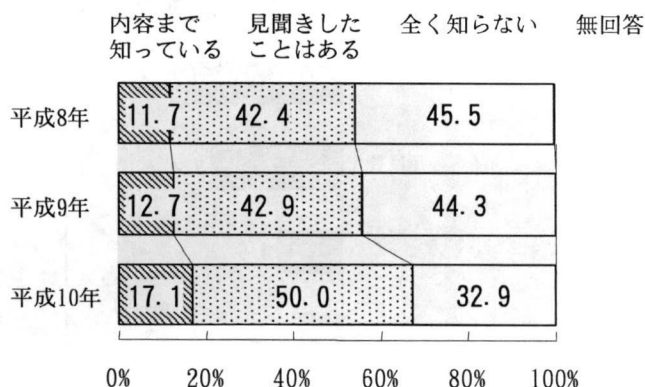
## 預金保険の認知度

預金保険制度<sup>(注)</sup>を知っているかどうかを尋ねると、前年と比べ「内容まで知っている」が+4.4%ポイント、「見聞きしたことはある」が+7.1%ポイント増加して、預金保険制度の存在を知っている世帯が全体の3分の2を占めるようになった。

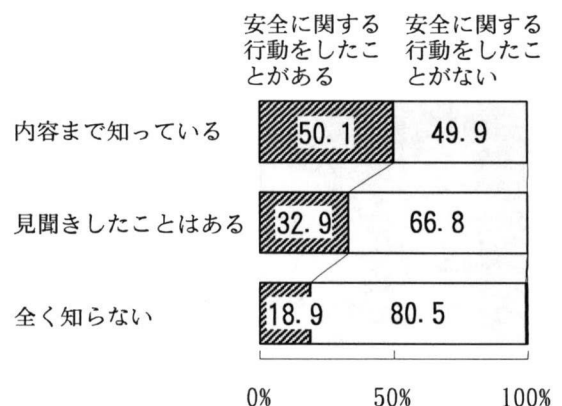
また、預金保険制度の認知度と安全に関する行動の関係をみると、預金保険の認知度が高い世帯ほど、安全に対して行動した経験を持つ世帯も多いことがわかる。

(注) 預金保険制度とは、金融機関が破綻した場合に預金者を保護する仕組み。平成13年3月末までは、特例措置を講じて預金取扱金融機関の預金等を全額保護できるようにしているが、平成13年4月以降は、1金融機関ごとに元本1,000万円までを最低限保証するように保護の内容が変わる。

(図表) 預金保険の認知度



(図表) 預金保険の認知度と安全に関する行動

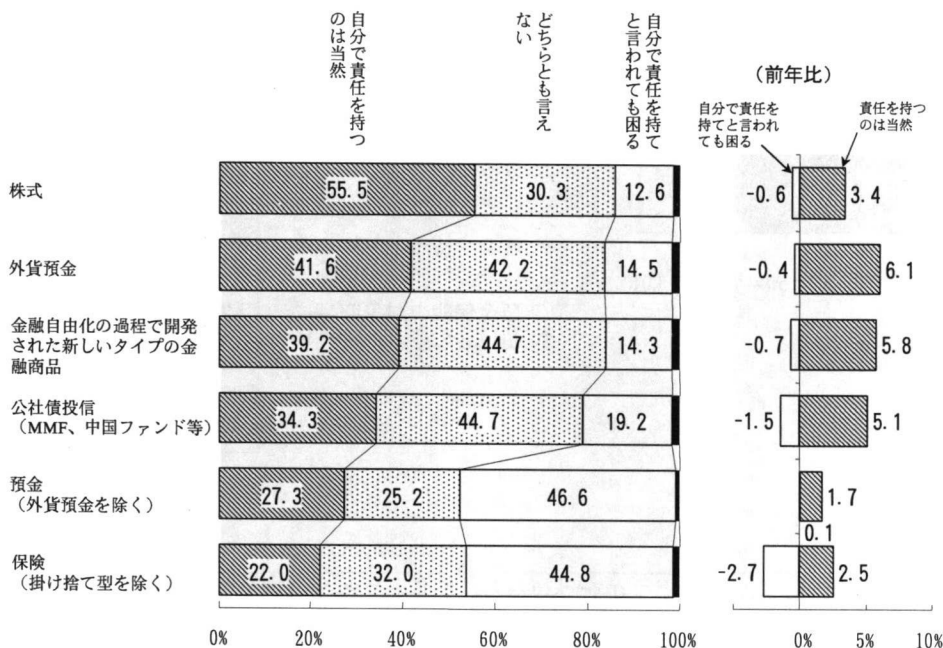


## 各種金融商品の選択における自己責任の受け止め方

「株式」や「外貨預金」など、相場の状況によって価格変動する金融商品については、「自分で責任を持つのは当然」と考える世帯が約4～5割に達しているが、同時に「どちらとも言えない」と回答する世帯も多い。「預金」や「保険」など、取扱金融機関によって元本保証されている商品は、「自分で責任を持てと言われても困る」と考える世帯が多い。

前年と比べると、「外貨預金」や「新しいタイプの金融商品」などでとくに自己責任意識が高まっている。

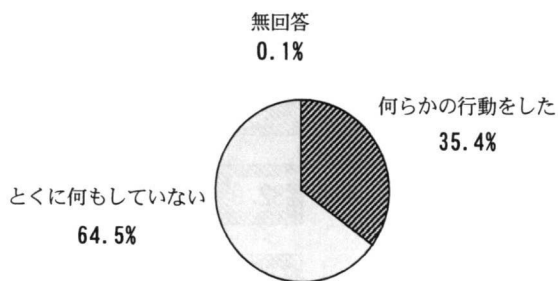
(図表) 自己責任の受け止め方



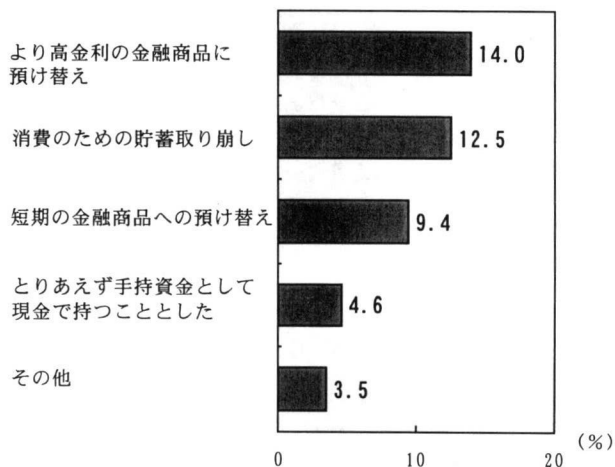
## 低金利下の行動

低金利の下で、何らかの行動をした世帯の割合は、35.4%となっている。具体的な行動内容としては、「より高利の金融商品への預け替え」が最も多い。

(図表) 低金利下での行動



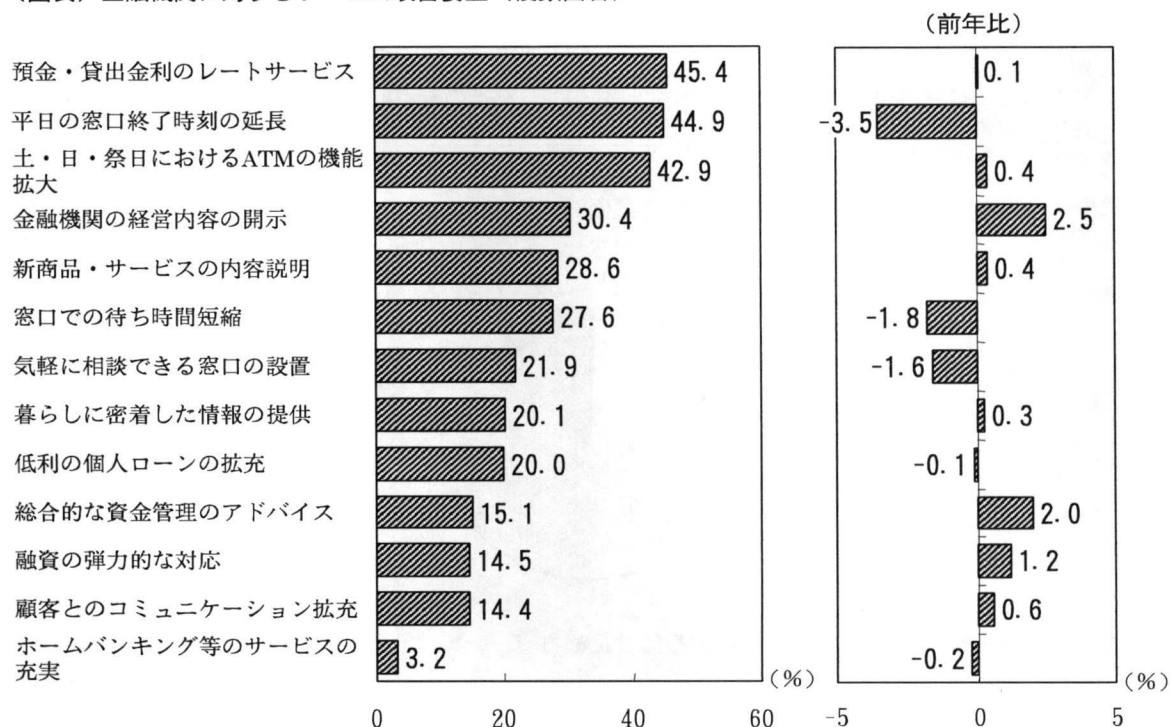
(具体的な行動内容)



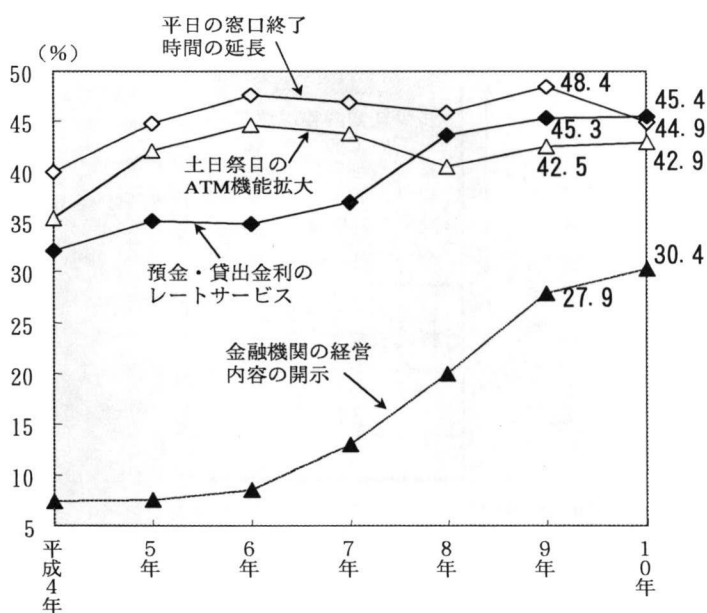
## 金融機関に対するサービス改善要望

金融機関のサービスに対しては、「預金・貸出金利のレートサービス」や「金融機関の経営内容の開示」の要望が年々高まってきている。また、前年との対比では、「総合的な資金管理のアドバイス」を望む声も高まっている。

(図表) 金融機関に対するサービス改善要望 (複数回答)



(今回上位4項目の時系列推移)



(金融システム問題)

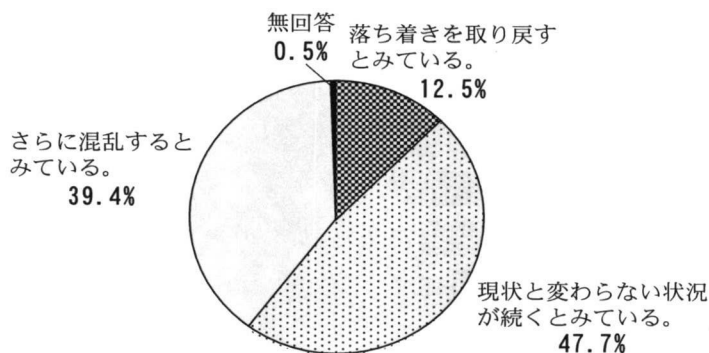
今後2～3年間の金融情勢に対する評価は、「現状と変わらない状況が続く」との見方が47.7%と最も多く、次いで「さらに混乱するとみている」が39.4%となった。

一方、自ら取引している民間金融機関の経営内容に対する受け止め方としては、「多少経営内容は悪化していても、経営破綻する不安はない」が39.4%、「経営内容は健全だと思っているので、不安はない」が27.9%と、金融機関全般に対してよりも楽観的な見方となっている。

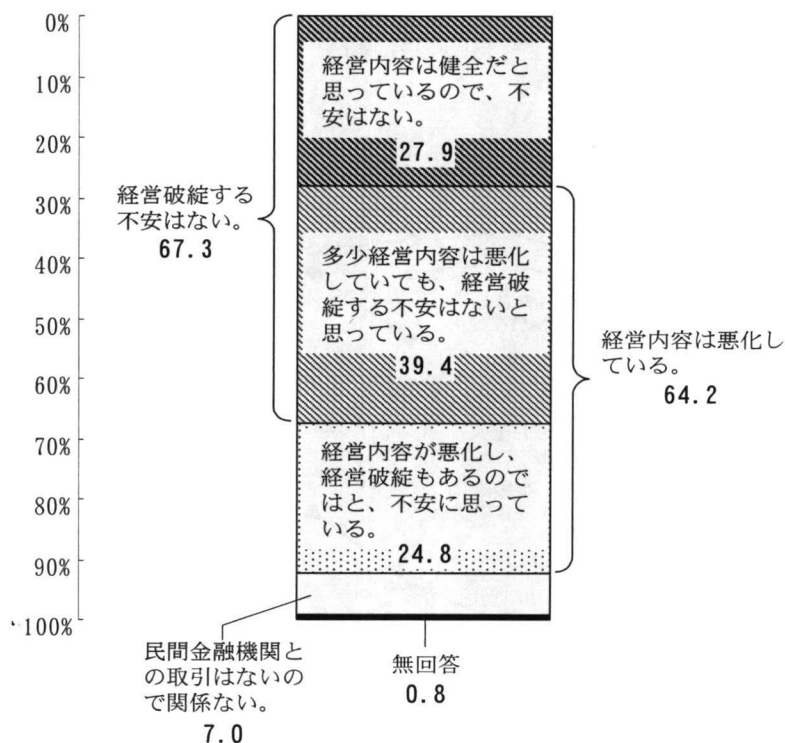
経営内容の評価としては「悪化している」との回答が64.2%に及んでいるが、実際に「経営内容を確認したことがある」のは全体の7.3%に止まっている。確認経験の有無を経営内容に対する受け止め方の違いで区分してみると、経営内容に対して不安がある世帯ほど、「経営内容を確認したいと思う」世帯<sup>(注)</sup>は多くなるが、逆に、実際に「確認したことがある」世帯は少なくなる傾向がある。

(注) 経営内容を確認したいと思っても、「確認の方法がわからない」あるいは「経営に関する情報が不足している」とする世帯。

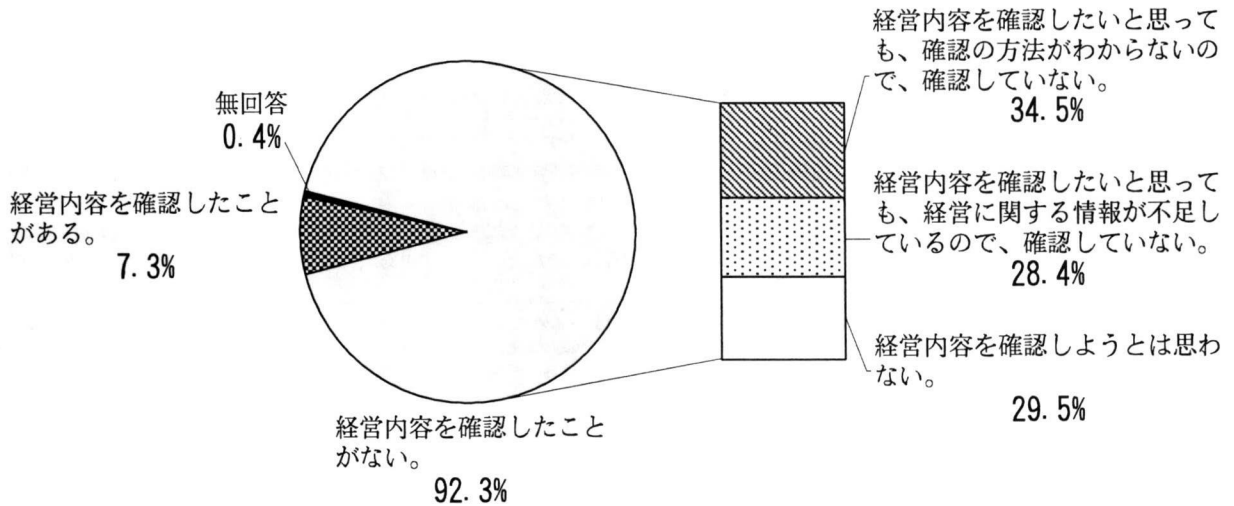
(図表) 今後2～3年間の金融情勢に対する評価



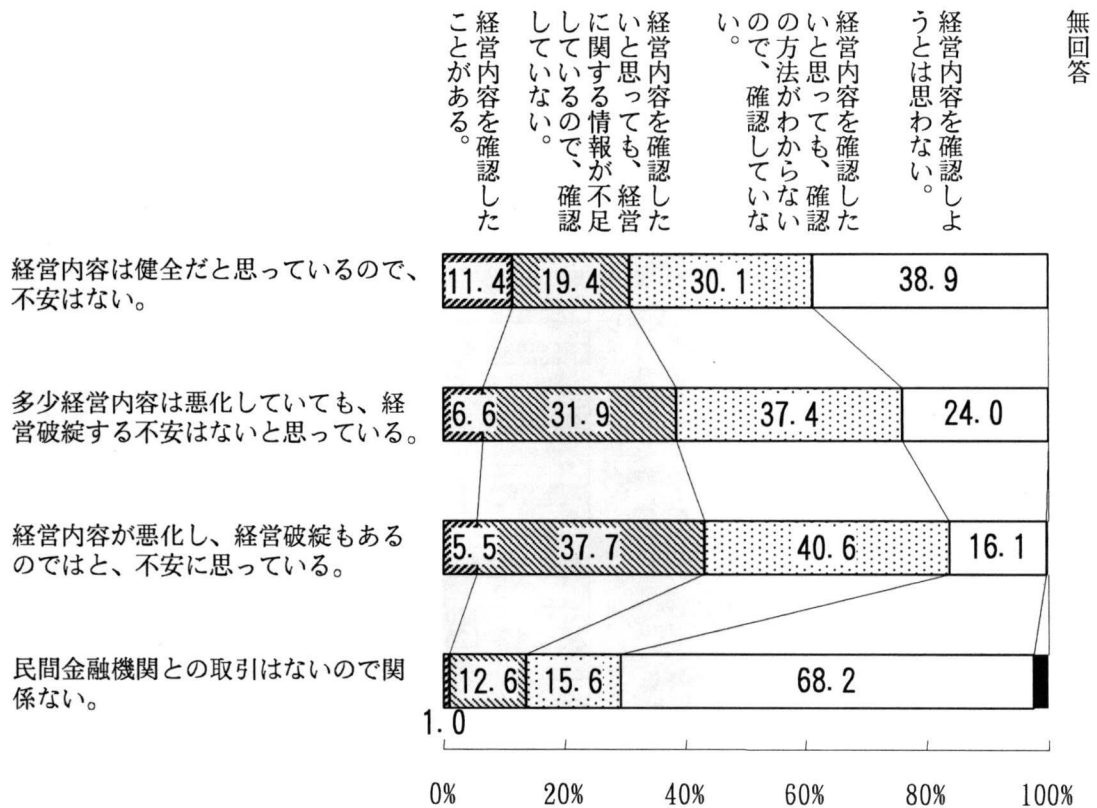
(図表) 取引金融機関の経営内容に対する受け止め方



(図表) 取引金融機関の経営内容の確認



(図表) 取引金融機関の経営内容に対する受け止め方と確認行動の関係





(新しい金融の流れ)

ビッグバン

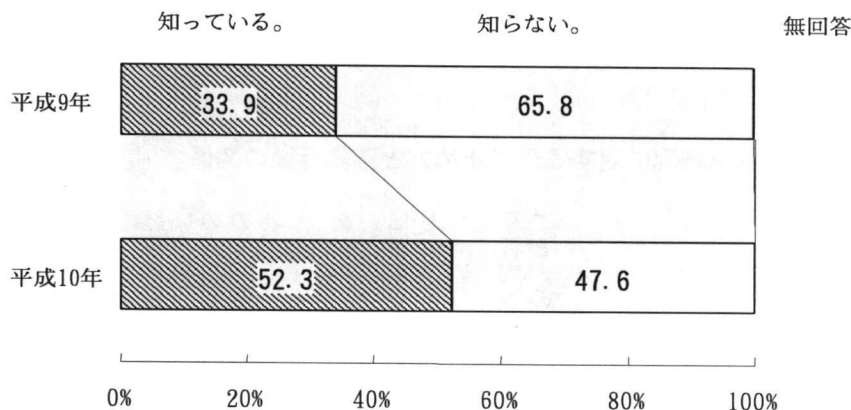
ビッグバンの認知度は前年比大幅に上昇し、過半数に達した。

「ビッグバンを知っている」と回答した世帯に、ビッグバンで実現すると思われることについて聞くと、「金融機関によって金利に差が生じる」との回答が最も多い。もっとも、前年との対比でみると、「金利差が生じる」、「手数料を大幅に引き下げる先が増える」といったプライシングに関わる回答が減少する一方、「取引先が制限されていた商品を多くの金融機関が扱う」、「金融商品の種類が増える」といった金融商品や取扱金融機関の多様化に関わる回答が増加している。

また、ビッグバンの進展によって自らの生活にどのような影響があるかについては、「金融機関の経営内容に格差が生じたり、商品が複雑になるなど、生活に負担がかかる」との回答が、「経済が活性化し、生活に好影響を与える」との回答を上回っている。

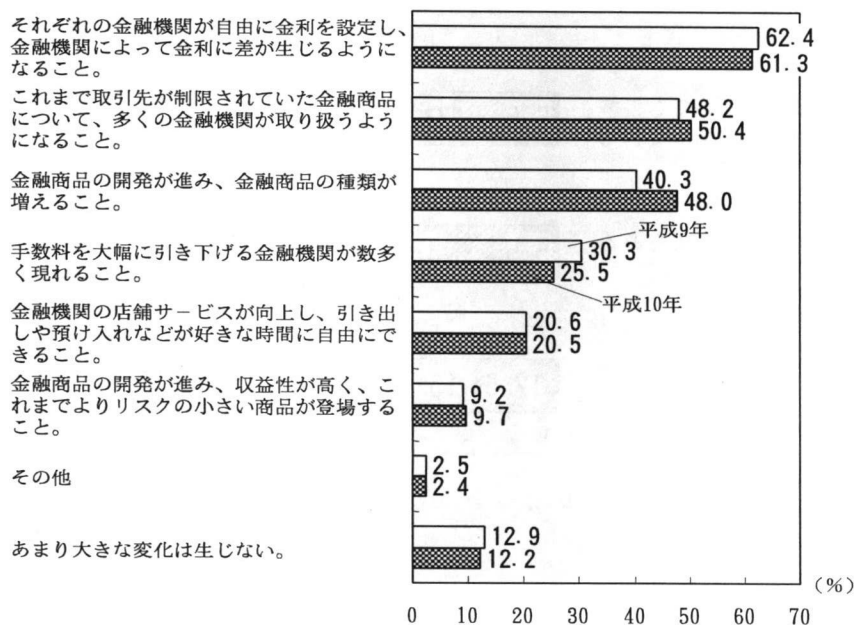
(注) ビッグバンとは、様々な規制と保護を受けていたわが国の金融システムを自由で効率の良いものに変えていこうという構想。この改革の狙いが、わが国の金融経済の抜本的な変革にあるので、宇宙誕生時の大爆発になぞらえてビッグバンと呼ばれている。橋本前首相は、平成13年(2001年)をめどに、フリー・フェア・グローバルの3つの原則に基づいて、改革を進めることを表明した。

(図表) ビッグバンの認知度

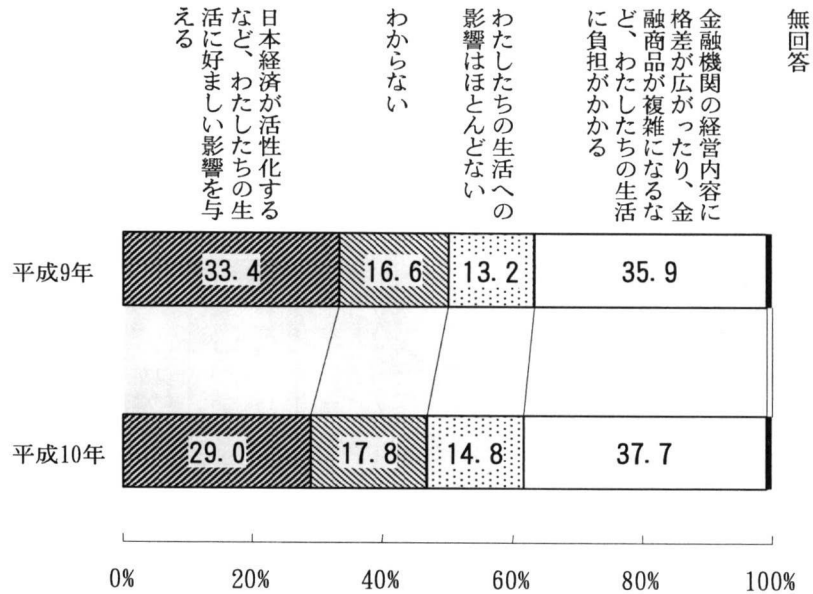


(図表) ビッグバンで実現と思われること

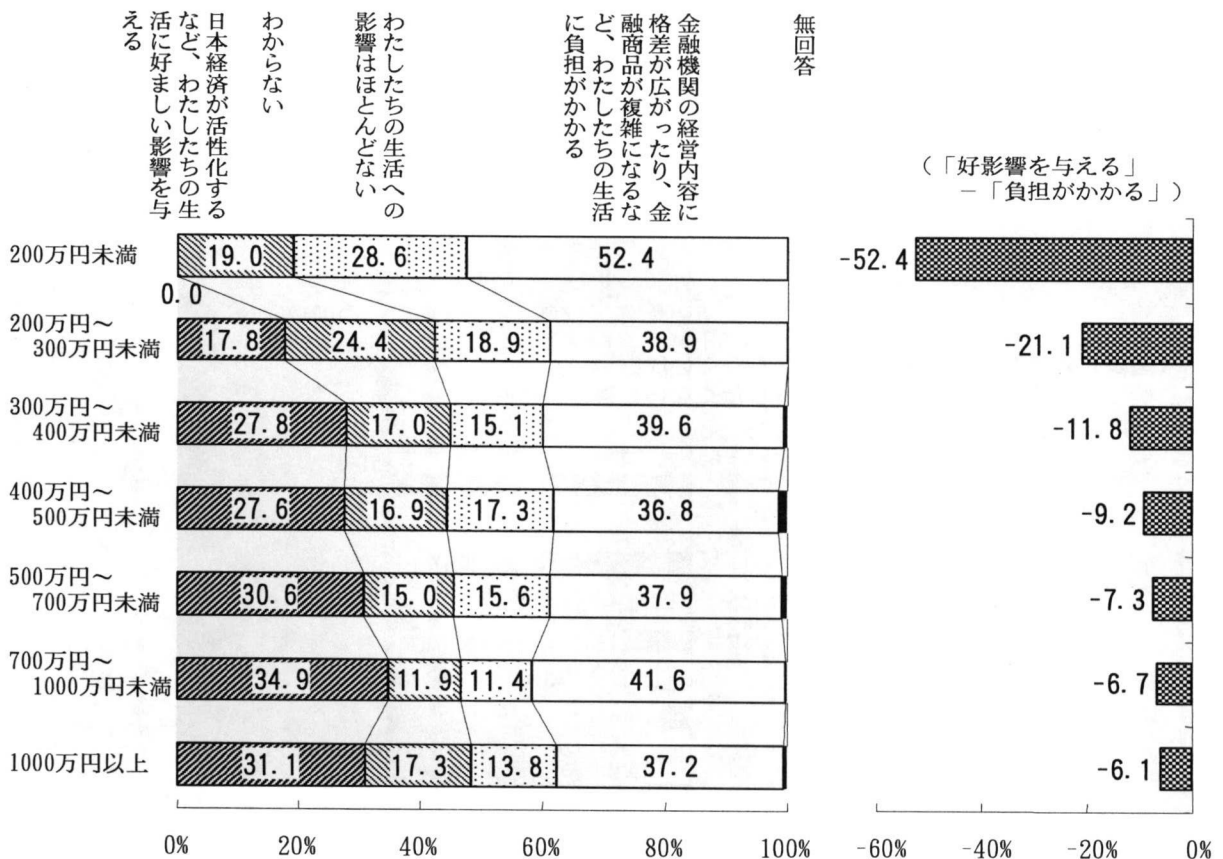
(ビッグバンを知っている世帯、3つまでの複数回答)



(図表) ビッグバンの進展によって予想されること  
(ビッグバンを知っている世帯)



(年収別)

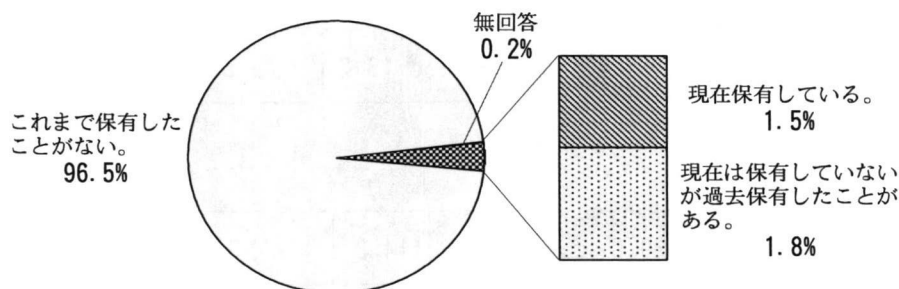


## 外貨建て金融商品の保有

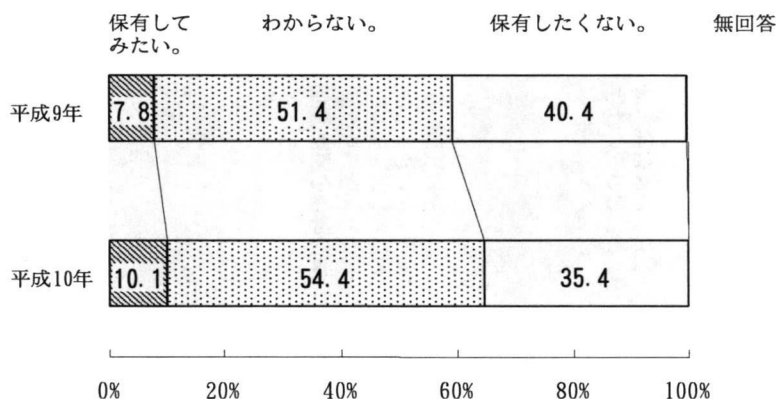
外貨建て金融商品の保有経験がある世帯は全体の 3.3%に過ぎず、また、現在も引き続き保有しているのは 1.5%に止まっている。

一方、今後の保有意思についてみると、「保有してみたい」との回答は 10.1%と、前年に比べ若干ながら増加しており、外貨建て金融商品に対する興味の広がりは窺われる。ただ、商品の難解さ、為替変動リスクの忌避といった理由から「保有したくない」とする世帯は 35.4%と、前年に比べれば減少したものの引き続き多い。

(図表) 外貨建て金融商品の保有状況

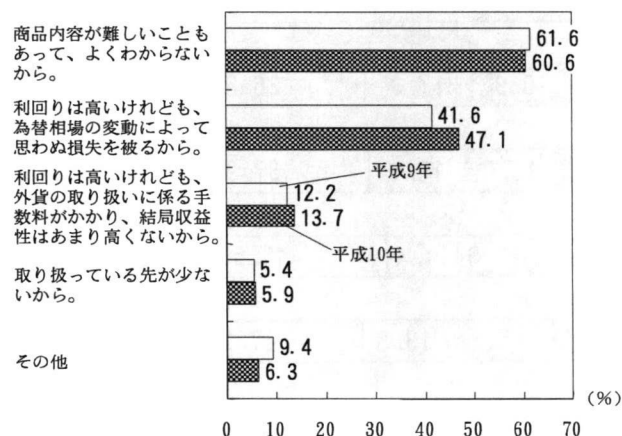


(図表) 外貨建て金融商品の保有意思



(図表) 外貨建て金融商品を保有したくない理由

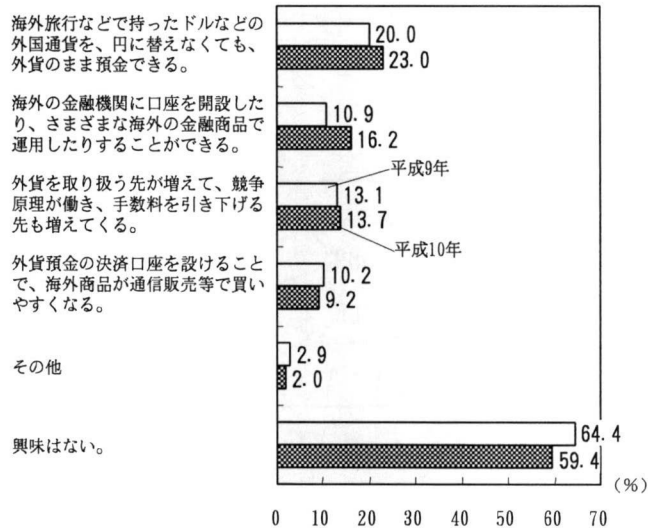
(外貨建て金融商品を保有したくない世帯、複数回答)



## 外為取引の自由化

本年4月の外為取引自由化に伴い外為取引に対する興味はやや高まった（「興味はない」とする世帯は前年対比△5.0%ポイント減少）。興味のあることがらの中では、「海外金融機関での口座開設」、「海外金融商品への運用」の増加が目立っている。

（図表）外為取引自由化で興味を持つことがら（複数回答）

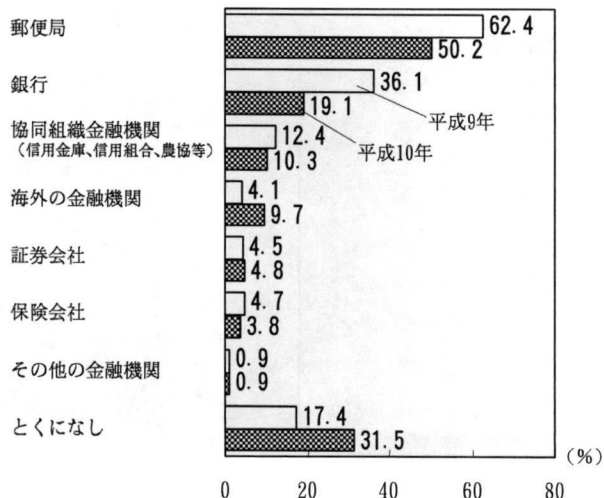


## 今後、取り引きを始めたり、増やしてみたい金融機関

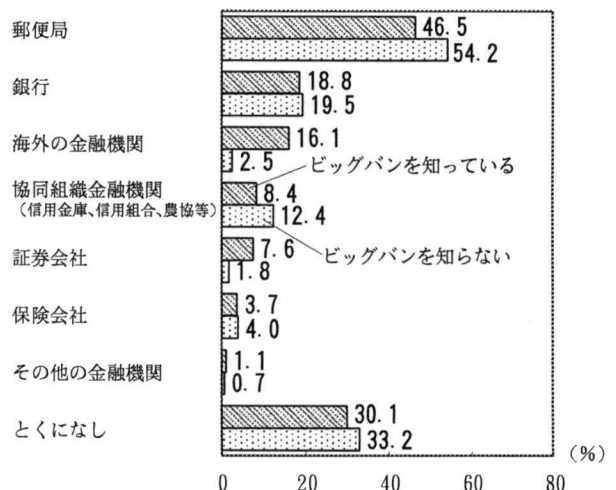
今後取り引きを始めたり、増やしてみたい金融機関としては、「郵便局」が最も多く、「銀行」、「協同組織金融機関」が続いている。前年と比べると、ほとんどの金融機関がポイントを減らす中、「海外の金融機関」がポイントを高めている。

また、ビッグバンの認知度との関係を見ると、ビッグバンを知っている世帯では、ビッグバンを知らない世帯に比べ、「海外の金融機関」や「証券会社」を重視する世帯がより多くなっている。

（図表）今後、取り引きを始めたり、増やしてみたい金融機関（2つまでの複数回答）



（ビッグバンの認知度と取り引きをしたい金融機関の関係）



### Ⅲ. 消費と借入

#### 収入、消費支出

過去1年間<sup>(注)</sup>の手取り収入は576万円と、前年比△4.8%の減少となった。一方、消費支出は490万円と、前年比△3.5%減少したが、手取り収入よりも減少幅は小さくなっている。

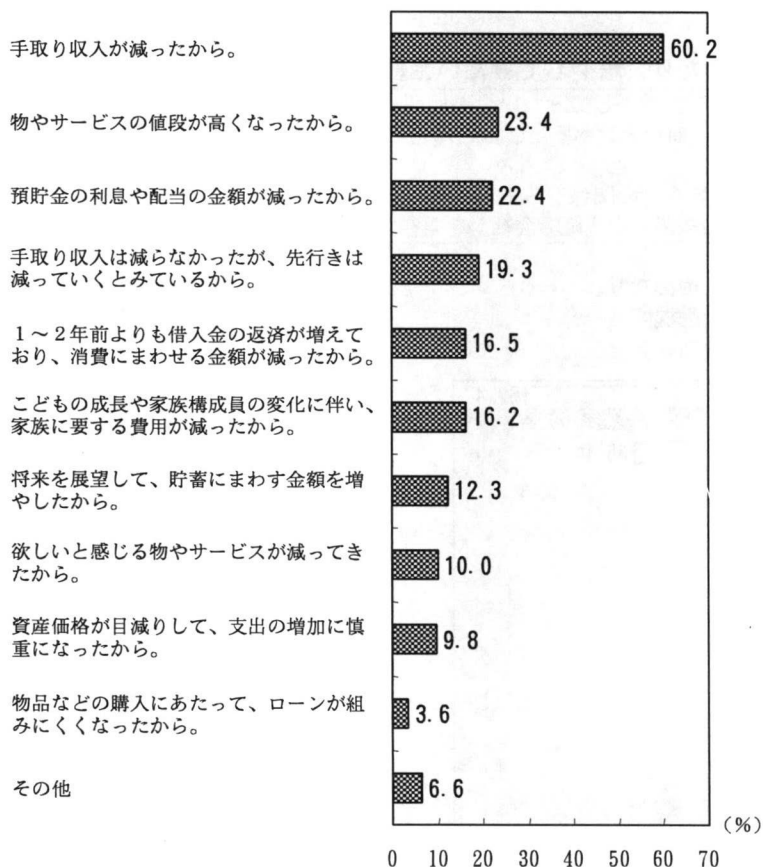
消費支出を減らした理由としては、「手取り収入が減ったから」との回答が約6割と最も多く、「手取り収入は先行き減っていくとみているから」、「将来を展望して貯蓄にまわす金額を増やしたから」といった将来に対する不安や展望に基づくものも全体の3割弱となっている。

(注) 本調査の調査時点は6月末であるため、昨年7月から調査時点までの1年間が対象となる。

(図表) 収入、消費支出  
(年間手取り収入を回答した世帯)

	平成3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
年間手取り収入 (a)	539 <sup>万円</sup>	551	589	574	592	593	605	576
消費支出 (b)	467	473	485	470	485	487	508	490
消費性向 (b/a)	86.6 <sup>%</sup>	85.8	82.3	81.9	81.9	82.1	84.0	85.1

(図表) 消費支出を減らした理由  
(消費支出を減らした世帯、3つまでの複数回答)

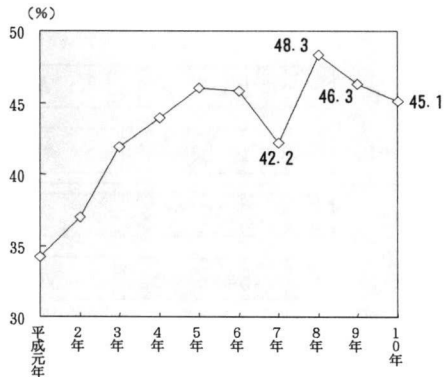


## 借入金

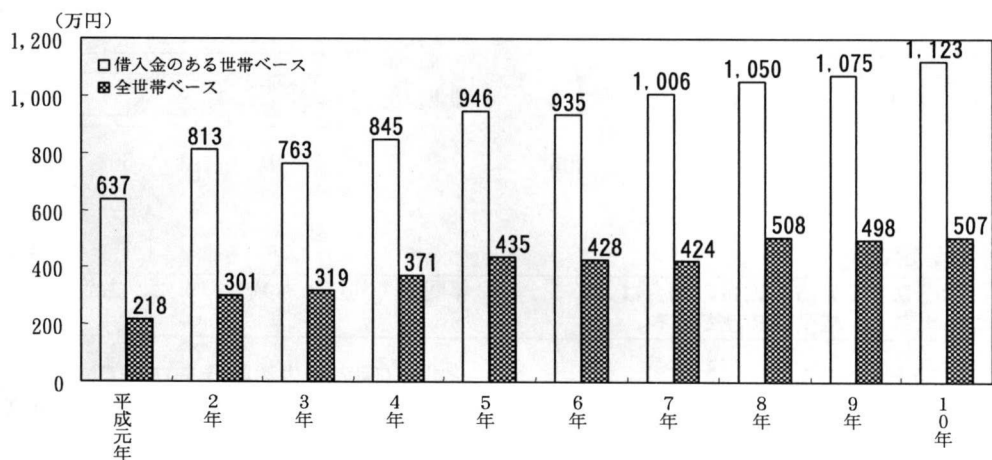
借入金のある世帯割合は、前年に比べ若干減少している。また、借入金のある世帯の平均借入金残高は、1,123万円と前年を上回った。また、借入金のない世帯などを含めた全世帯の平均借入金残高も、507万円と前年よりも増加している。

借入金の内訳は、借入先別にみると民間金融機関のウェイトが上昇している。

(図表) 借入金のある世帯割合



(図表) 平均借入金残高(1世帯当たり)



(図表) 借入金のある世帯における借入金の内訳

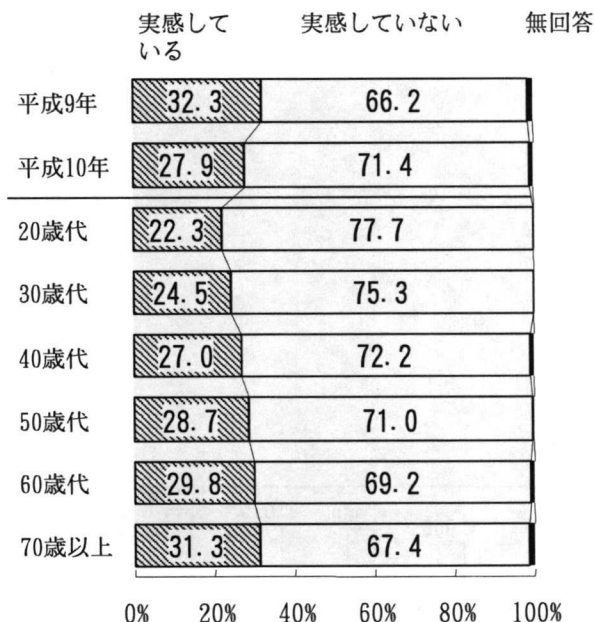
	借入金残高合計 (万円)	借入先別構成比 (その他とも計=100)							種類別構成比 (同左)	
		民間金融機関	公的金融機関	ク販売会社、クレジット会社等	貸金業者(消費者金融、質屋)	勤務先	親類、知人	住宅ローン	フリーローン	
平成7年	1,006	43.1	46.1	2.3	0.4	6.5	1.4	72.5	7.4	
8	1,050	46.7	43.7	2.4	0.2	4.9	2.0	72.1	6.2	
9	1,075	48.8	42.0	2.4	0.3	4.6	1.7	76.9	6.4	
10	1,123	49.2	41.8	2.3	0.3	4.1	1.7	70.6	6.6	
平成10年 実額(万円)	1,123	553	469	26	3	46	19	793	74	

#### IV. 生活の設計

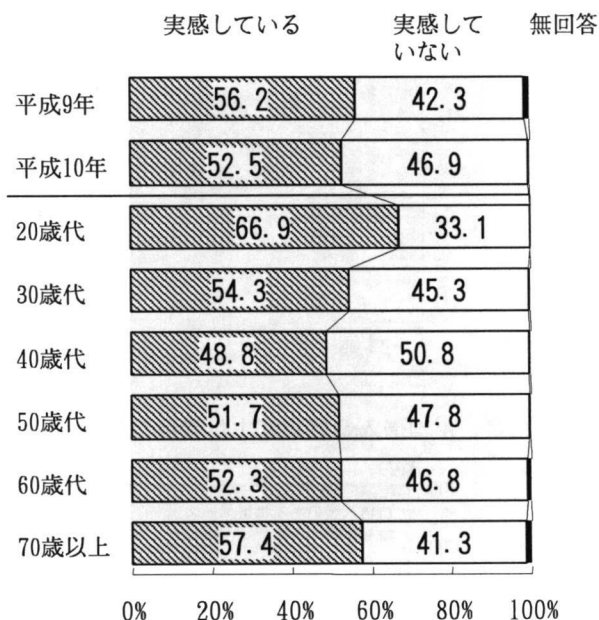
##### 豊かさの実感

経済的豊かさを実感する世帯と心の豊かさを実感する世帯は、ともに減少。

(図表) 経済的豊かさ



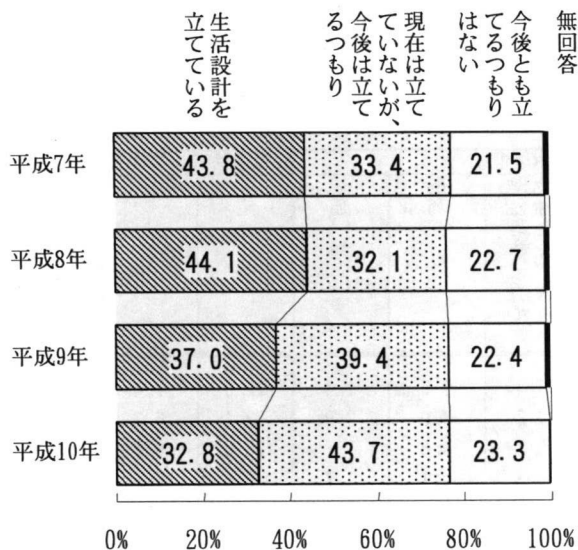
(図表) 心の豊かさ



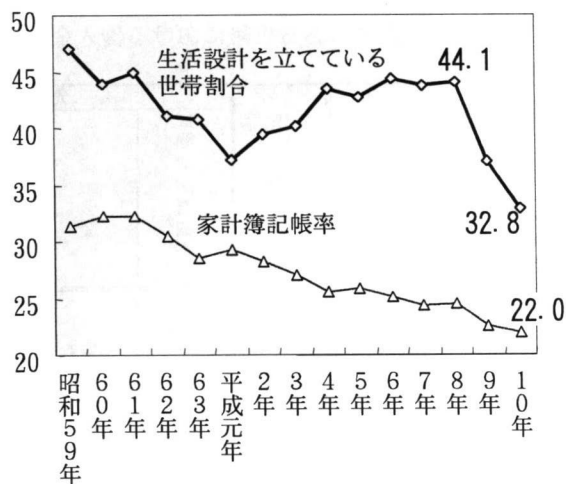
##### 生活設計の策定状況

「生活設計を立てている」世帯の割合は、ここ1、2年間で1割以上も減少。また、生活設計の基礎となる家計簿の記帳率も、減少を続けている。

(図表) 生活設計の策定



(図表) 生活設計を立てている世帯割合と家計簿記帳率の推移

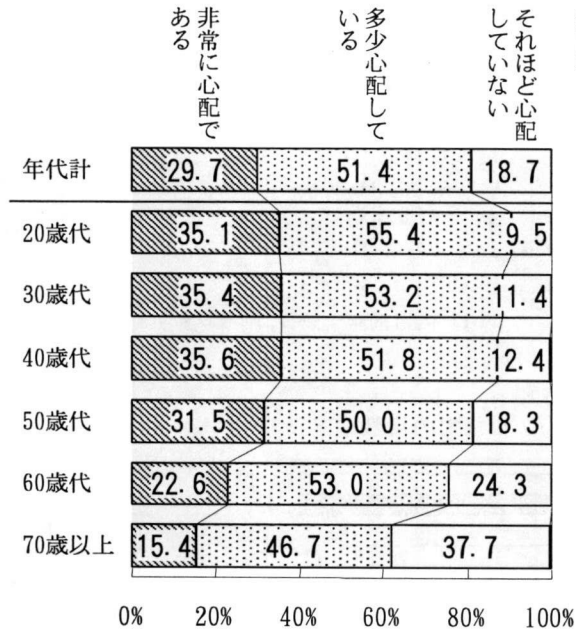




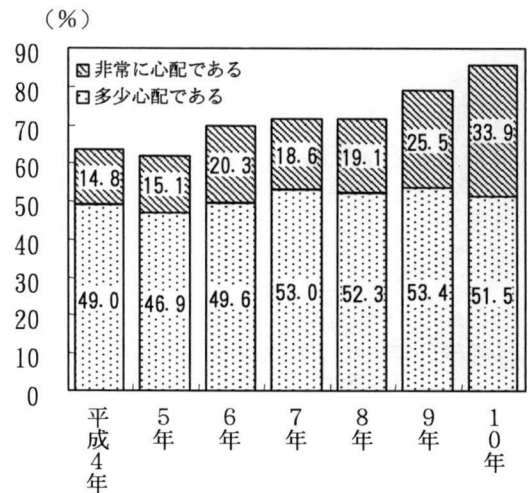
## 老後の生活への心配

「老後の生活を心配している」世帯は、8割以上にまで増加してきている。「老後の生活を心配している」理由をみると、「年金や保険が十分でない」や「再就職による収入が見込めない」といった要因が、このところ増加している。

(図表) 老後の生活への心配&lt;年代計&gt;

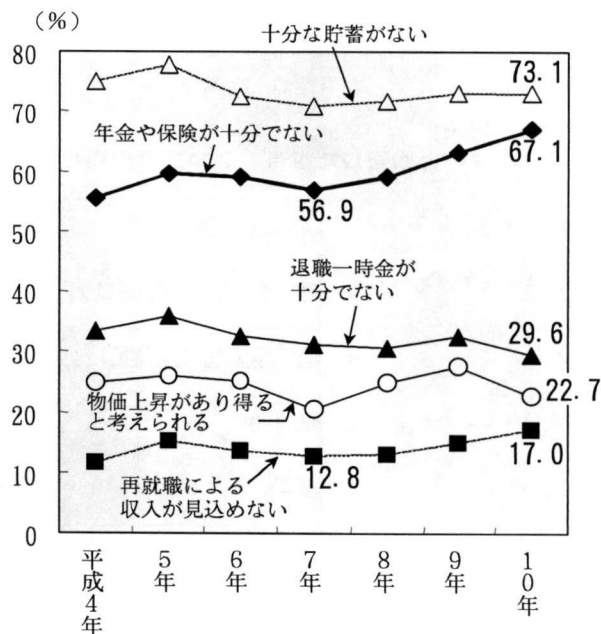


(時系列推移・60歳未満)



(図表) 老後の生活を心配する理由

(老後を心配している世帯<60歳未満>、複数回答)

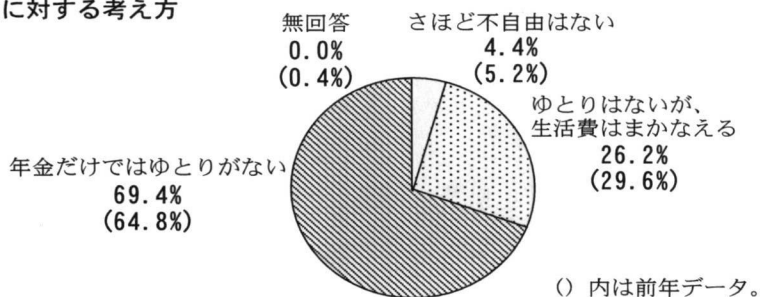


## 年金に対する考え方

老後の不安に大きな影響を与えている年金への意識について聞いたところ、「年金だけではゆとりがない」が約7割にも達している。その理由としては、将来の年金改革などを展望し、「年金支給金額が切り下がる」のではないかと考える世帯が前年よりも増加している。

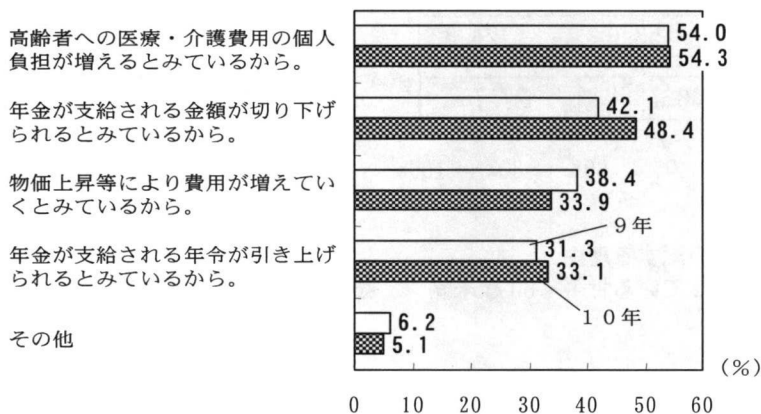
また、年金の不足分をどうするか尋ねると、「働いてまかなう」や「貯蓄でまかなう」といった自助努力の必要を考える世帯が増えているが、一方で「生活水準を切り下げざるを得ない」といった悲観的な見方をする世帯もやや増加している。

(図表) 年金に対する考え方



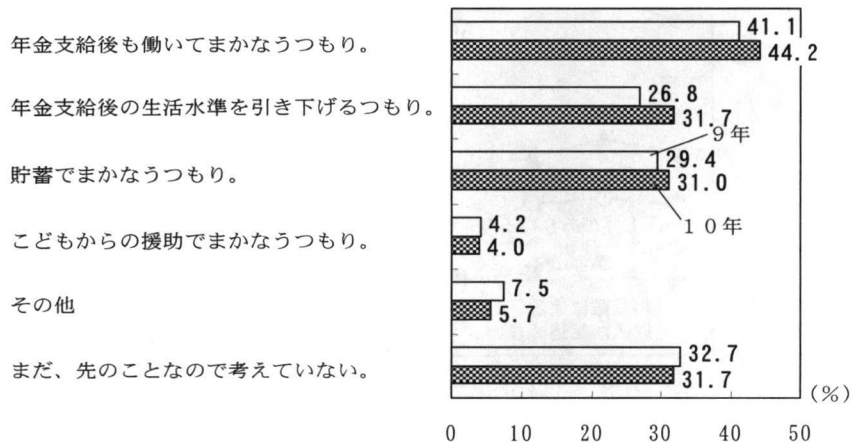
(図表) 年金だけではゆとりがないと考える理由

(年金だけではゆとりがないと回答した世帯、2つまでの複数回答)



(図表) 年金の不足分をまかなう方法

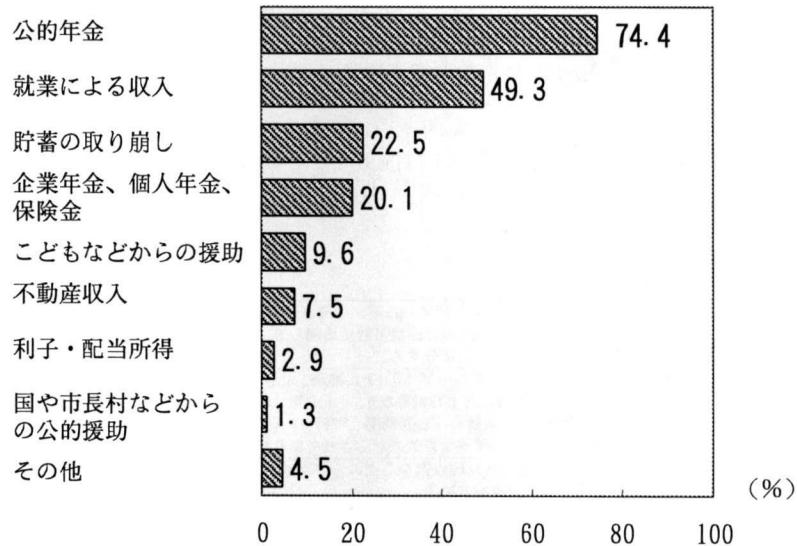
(年金だけではゆとりがないと回答した世帯、2つまでの複数回答)



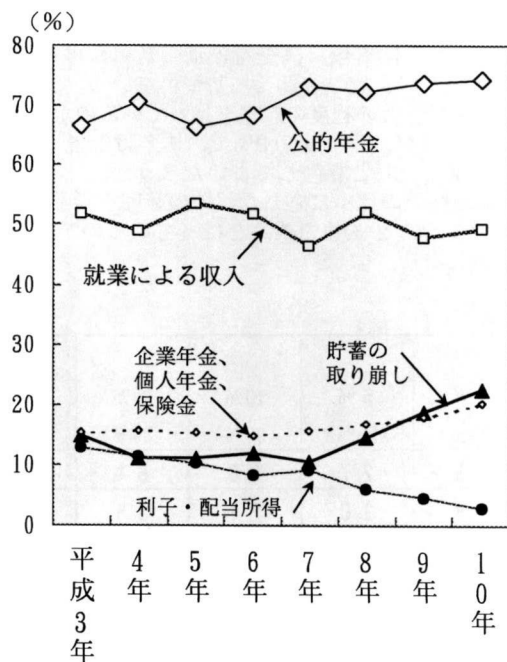
### 老後の生活資金源

世帯主が60歳以上の世帯では、老後の主な生活資金源として、引き続き「公的年金」と「就業による収入」を挙げる世帯が多く、「利子・配当所得」を挙げる世帯は少なかった。ここ数年の動きをみると、「利子・配当収入」を挙げる世帯の割合が低下する一方、「貯蓄の取り崩し」や「企業年金、個人年金、保険金」に頼る世帯が増えてきている。

（図表）老後の生活資金源  
（60歳以上、3つまでの複数回答）



（主な資金源の時系列推移）



## 【BOX 1】

### 標本設計とサンプル誤差

実際の世論調査では、国内すべての世帯を対象とすべきであるが、費用や時間など様々な事情から、すべての対象に調査を行うことは困難である。そこで、通常は、何らかの方法によって調査対象を抽出し、その結果をもって全体を推測する標本調査を行うことになる。

標本調査の主なポイントは、①調査結果ができるだけ「真の世論（国内すべての世帯に調査したときの結果）」に近くなるよう、偏りのない調査対象を抽出すること（標本設計）と、②「真の世論」との乖離があるとすれば、それがどのくらいあるのか（調査結果をどのくらいの幅を持ってみるべきか＝調査結果の誤差）を知っておくことである。

#### ■ 標本設計

本調査では、標本設計に「層化2段無作為抽出法」という方法を用いている。この方法では、全国的地域性、都市規模の特性に偏りがなく、無作為（ランダム）に調査対象を選ぶことができる特徴がある。

（層化2段無作為抽出法の手順）

地域別に調査地点数を按分	全国を9地域（北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州）に区分し、各地域の普通世帯数に比例して、全国の調査地点数400地点を各地域に按分する。	（例） 北海道（27地点） ↓
都市規模別に調査地点数を按分	1地域の中で都市規模別6グループ（①13大都市、②世帯数4万以上の市、③世帯数2万以上4万未満の市、④世帯数1万以上2万未満の市、⑤世帯数1万未満の市、⑥郡部＜町村＞）を区分し、調査地点数を6グループの普通世帯数に対応させて割り振る。	13大都市（8地点） 4万以上の市（8地点） 2万以上の市（2地点） 1万以上の市（2地点） 1万未満の市（1地点） 郡部（6地点） ↓
調査地点の選定	グループごとに割り振られた地点数を各グループの中から無作為に抽出し、調査対象地点を決める。	8地点を13大都市のグループからランダムに選ぶ ↓
調査対象世帯の選定	調査地点から、住民基本台帳に基づき無作為に各15世帯の調査対象世帯を選んでアンケートを実施する。	さらに、その8地点からランダムに各15世帯を選ぶ

#### ■ 調査結果の誤差

本調査の調査対象世帯数は6,000世帯である。例年、回収率は70%前後なので、4,200程度の世帯の回答が得られる。調査の精度は、サイコロを多く転がせば「1」の目が出る確率が限りなく6分の1に近づくと同じように、「標本数（調査対象世帯数）が多いほど、調査結果は真の姿（真の世論）に近づいていく」という「大数の法則」に基づいている。

では、4,200世帯の回答結果は、どの程度の誤差を持っているのだろうか。例えば4,200世帯のうち、Aという考えを持つ世帯の割合が、昨年は60.0%で、本年は60.5%であったとすると、「昨年に比べて本年はAと考える世帯が増えた」と評価してよいだろうか。

下表は、調査世帯数と調査結果の比率に応じた誤差の範囲を示した早見表である。これによれば、先程の結果は、プラス・マイナス2%強の誤差を持っているので、必ずしも「昨年に比べて本年は増えた」とは言えないことになる。

標準誤差（信頼度 95%）

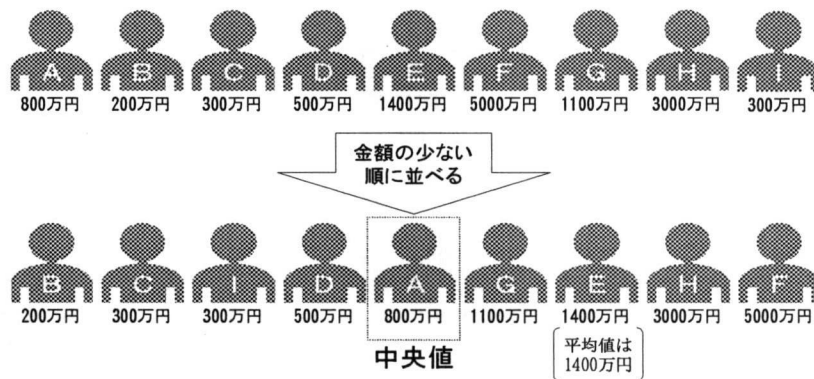
調査結果 の比率 世帯数	1% (99%)	5% (95%)	10% (90%)	20% (80%)	30% (70%)	40% (60%)	50%
500 世帯	1.3	2.7	3.8	5.1	5.8	6.2	6.4
1,000 世帯	0.8	2.0	2.7	3.5	4.1	4.5	4.5
2,000 世帯	0.6	1.4	1.8	2.5	3.0	3.1	3.1
3,000 世帯	0.6	1.1	1.6	2.1	2.4	2.5	2.5
4,000 世帯	0.4	1.0	1.4	1.8	2.1	2.3	2.3

## 【BOX 2】

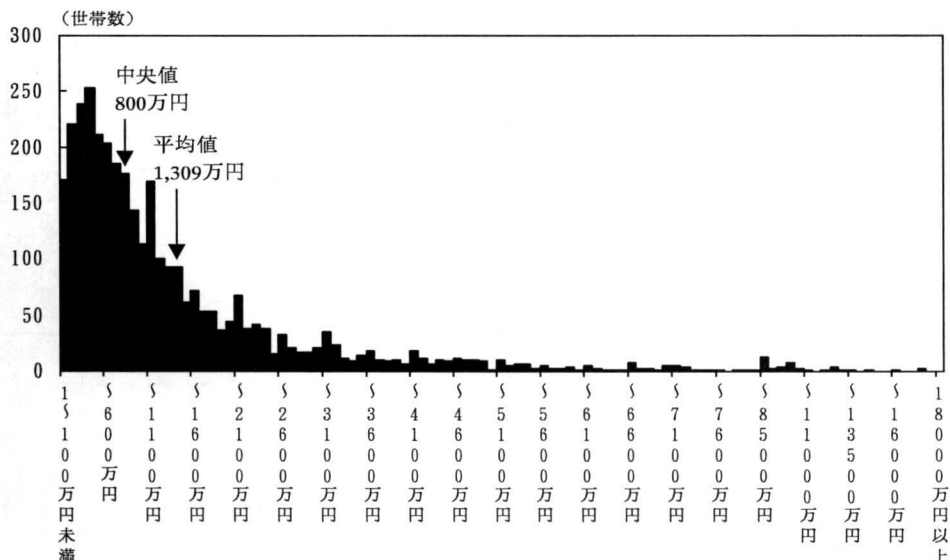
## 平均値と中央値

貯蓄保有額の平均値が1,309万円と聞くと、多くの世帯は実感とかけ離れた印象（「自分はそんなに多くの貯蓄を持っていない」）を持つと思われる。これは、平均値が少数の高額貯蓄保有世帯によって、引き上げられているためである。例えば、10世帯のうち9世帯が100万円を持っていて、残りの1世帯が1億円を持っている場合には、平均値が1,090万円になってしまう。10世帯のうち9世帯は、平均値1,090万円と聞いて、その値に驚くだろう。実際、今回調査では、貯蓄保有世帯3,822世帯のうち7割が平均値よりも少ない貯蓄保有額だった。

こうした平均値の欠点を補うために、ここでは中央値を用いて平均的な家計像を捉える。中央値とは、調査対象世帯を貯蓄保有額の少ない世帯から多い世帯へ順に並べたとき中位に位置する世帯の貯蓄保有額である。中央値（今回は800万円）では、貯蓄保有世帯のちょうど半分の世帯が自分の貯蓄額よりも多くなり、もう半分の世帯が自分の貯蓄額よりも少なくなる。したがって、中央値は世帯全体の実感により近い数字になると考えられる。



平成10年における貯蓄保有額の分布は、以下の通りになっている。



### 【BOX 3】

#### 調査時点の株価・為替相場状況

本調査では、株式・債券・投資信託などの有価証券、外貨建て金融商品について、その保有額を回答時点の時価で記入することになっている。したがって、貯蓄保有額の増減状況を見る場合には、貯蓄の積立て・取り崩し以外に、相場変動によって株式や債券のような価格変動商品の時価がどのくらい変動したかにも注意を払っておく必要がある。

本調査の調査期間（例年約10日間）の相場状況は、以下の通りである。

	8年	9年	10年
調査期間	6/21～7/1日	6/20～30日	6/26～7/6日
株式相場 (日経平均株価)	22,455 ～22,666円	20,604 ～20,679円	15,210 ～16,511円
6月末	22,530円	20,604円	15,830円
前年比	+ 55.0%	△ 8.5%	△ 23.2%
外国為替相場 (インターバンク米ドル直物・東京市場 17 時時点)	108.68 ～109.88円/ドル	113.60 ～115.34円/ドル	138.25 ～142.13円/ドル
6月末	109.88円/ドル	114.30円/ドル	139.95円/ドル
前年比(円安+)	+ 29.6%	+ 4.0%	+ 22.4%

## 【BOX 4】

## 残高のある世帯と全世帯

残高の平均値は、「各世帯の残高の合計÷世帯数」で計算される。このとき、算入する“世帯”として、どんな世帯を選ぶか、その範囲によって、平均値の持っている意味合いは変わってくる。家計部門全体の状況をみる場合には、残高のある世帯だけでなく、残高のない世帯を含めた全世帯ベースに換算した残高に注目する必要がある。

例えば、今回調査の「借入のある世帯」の借入金は前年よりも増加（9年1,075万円→10年1,123万円）しているが、「借入のある世帯」の割合は前年よりも減少（9年46.3%→10年45.1%）している。これだけでは家計部門全体として借入が増えているのか減っているのかは判断できない。そこで、「借入のない世帯」の残高を0万円として平均値を計算すると、家計部門全体での借入金の動向を把握できる。今回の結果をみれば、家計部門全体での借入金は前年より増加（9年498万円→10年507万円）していることがわかる。

	平成7年	8年	9年	10年
借入のある世帯割合(A)	42.2%	48.3	46.3	45.1
借入のある世帯の借入残高(B)	1,006万円	1,050	1,075	1,123
全世帯の借入残高(A×B)	424万円	508	498	507

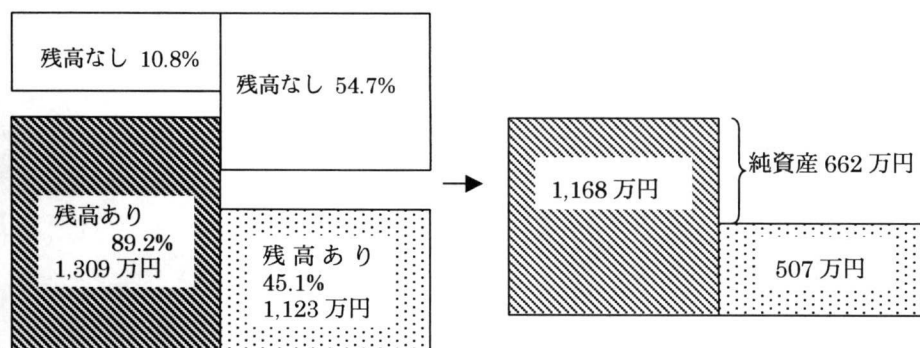
また、全世帯ベースは、家計部門全体の貯蓄・借入のバランスを知るうえでも有用である。「貯蓄のある世帯」の貯蓄保有額と「借入のある世帯」の借入残高を比べようとしても、世帯の範囲が異なるので単純な比較はできない。そこで、ともに全世帯をベースにすると、貯蓄残高は1,168万円、借入残高507万円と資産・負債のバランスがわかる。

(世帯の割合)

資 産

負 債

全世帯ベースの貯蓄・借入





(単純集計データ)

## 貯蓄と消費に関する世論調査 (平成10年)

(注) 回答欄に併記された計数は、選択肢形式の場合は回答比率(％、小数第2位四捨五入)、数値記入形式の場合は合計項目の回答世帯を分母とする平均値(単位未満四捨五入)を示す。また、数値記入形式において欄外に記した数値は、合計項目の回答世帯を分母とする保有率(％、小数第2位四捨五入)を示す。なお、無回答者を掲記していないため、単数回答項目について、その回答比率の合計は必ずしも100とはならない。

### 問1

あなたのご家庭では、(a) 過去1年間に手取り収入(税引後)の何％(％未満は四捨五入)ぐらいを貯蓄(注)しましたか。

また、(b) 年間手取り収入のうちボーナスや臨時収入(税引後)からは何％(％未満は四捨五入)ぐらいを貯蓄しましたか(商・工業や農・林・漁業等事業のための貯蓄や、給与振込、口座振替など一時的にしか口座にとどまらないような預貯金は含めないでお答えください。以下の質問についても同様です)。

該当する番号に○印をつけてお答えください。

(注) この調査でいう貯蓄とは金融資産(問3に記載の貯蓄商品)であり、土地・住宅等の実物資産は含みません。

(記入例)

例えば、年間手取り収入100万円のうち  
5万円を貯蓄した場合 

5
---

％  
12万5千円を貯蓄した場合 

13
----

％  
とご記入ください(％未満は四捨五入)。

- |     |                      |   |      |      |
|-----|----------------------|---|------|------|
| (a) | 1                    | 年間手取り収入の <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>10</td></tr></table> ％ぐらいを貯蓄した。   | 10   | 76.1 |
|     | 10                   |   |      |      |
| 2   | 年間手取り収入から貯蓄を全くしなかった。 | 23.3  |      |      |
| (b) | 1                    | ボーナスや臨時収入の <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>19</td></tr></table> ％ぐらいを貯蓄した。 | 19   | 46.8 |
|     | 19                   |   |      |      |
|     | 2                    | ボーナスや臨時収入から貯蓄を全くしなかった。  | 19.9 |      |
| 3   | ボーナスや臨時収入がなかった。      | 32.1  |      |      |

### 問2

あなたのご家庭では、現在、貯蓄を保有していますか。(○は1つ)

1  
貯蓄を保有している。  
89.2

↓  
続けて問3の(a)、(b)にお答えください。

2  
貯蓄を保有していない。  
10.8

↓  
続けて問3の(b)にお答えください。

## 問3

(a) あなたのご家庭では、現在の貯蓄商品別残高(手持ち現金を除く)およびその合計額はどのくらいですか。

貯蓄商品	現在の貯蓄残高					記入に当たっての注意	
	億	千万	百万	十万	万円		
1 預貯金			4	8	1	郵便貯金は除く。	73.6
うち定期性預金			3	6	6	期間の定めのある預金。	58.7
2 郵便貯金			2	6	9		57.1
うち定期性預金			2	2	9	定額貯金、積立貯金など期間の定めのある貯金。	48.1
3 金銭信託・貸付信託				4	6	ビッグ、ヒット、スーパーヒットを含む。	6.9
4 生命保険・簡易保険			2	7	4	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、掛け捨ての保険、年金型商品は除く。	57.7
5 損害保険				2	7	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、掛け捨ての保険、年金型商品は除く。	15.8
6 個人年金保険				5	7	これまでに積み立てた掛け金の総額。厚生年金、国民年金、公務員共済など公的年金の掛け金は除く。	20.3
7 債券				1	9	時価<現在の相場>でお答えください。ご不明なら額面でお答えください。	4.1
8 株式				7	4	従業員持株制度による株式を含む。時価<現在の相場>でお答えください。	15.8
9 投資信託				1	4	時価<現在の相場>でお答えください。ご不明なら額面でお答えください。	3.3
10 財形貯蓄				3	9	一般財形、財形年金、財形住宅の合計額。	15.3
11 その他金融商品					9	抵当証券、金貯蓄口座など。	2.1
合 計 (1～11の総計)	億	千万	百万	十万	万円		100.0
		1	3	0	9		

(全員にお聞きします。)

(b) 今後1年間に貯蓄を増やしていく場合、最も重視する貯蓄商品の欄内の番号に○をつけてください(最も重視する貯蓄商品が複数にわたる場合には、それぞれの商品欄内の番号に○をつけてください)。

1 預貯金(郵便貯金を除く)	28.2	7 債券	0.8
2 郵便貯金	38.8	8 株式	1.9
3 金銭信託・貸付信託	1.6	9 投資信託	1.9
4 生命保険・簡易保険	11.3	10 財形貯蓄	5.7
5 損害保険	1.4	11 その他の貯蓄商品	1.7
6 個人年金保険	6.6		

問4

あなたのご家庭では、貯蓄する商品を決める場合に、どのようなことに最も重点をおいて選びますか。  
(○は1つ)

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1 利回りが良いから。               | 13.1 |
| 2 将来の値上がりが期待できるから。        | 1.8  |
| 3 元本が保証されているから。           | 29.1 |
| 4 取扱金融機関が信用できて安心だから。      | 23.4 |
| 5 現金に換えやすいから。             | 6.3  |
| 6 少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから。 | 22.9 |
| 7 その他                     | 3.3  |

問5

あなたのご家庭では、現在の貯蓄残高についてどのような評価をされていますか。(○は1つ)

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1<br>十分である。 | 2<br>不十分である。 |
| 9.5         | 90.1         |

問6

あなたのご家庭では、現在の貯蓄残高は1年前と比べて増えましたか、あるいは減りましたか。  
(○は1つ)

- |                   |                     |                   |
|-------------------|---------------------|-------------------|
| 1<br>増えた。<br>21.3 | 2<br>変わらない。<br>34.1 | 3<br>減った。<br>44.6 |
| ↓                 | ↓                   | ↓                 |
|                   | 問8にお進みください。         |                   |

問7

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(a)「増えた」理由は何ですか?

(○はいくつでも)

- |                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| 1 定例的な収入が増加したから。                    | 42.8 |
| 2 定例的な収入から貯蓄する割合を引<br>き上げたから。       | 27.7 |
| 3 配当や金利収入があったから。                    | 3.7  |
| 4 土地・住宅等の実物資産の売却によ<br>る収入があったから。    | 1.7  |
| 5 相続、退職金等による臨時収入があっ<br>たから。         | 6.1  |
| 6 株式、債券価格の上昇により、これ<br>らの評価額が増加したから。 | 0.7  |
| 7 扶養家族が減ったから。                       | 10.2 |
| 8 その他                               | 21.5 |

(前問で3と回答した人にお聞きします。)

(b)「減った」理由は何ですか?

(○はいくつでも)

- |                                       |      |
|---------------------------------------|------|
| 1 定例的な収入が減ったので貯蓄を取<br>り崩したから。         | 42.3 |
| 2 土地・住宅購入費用の支出があった<br>から。             | 16.9 |
| 3 耐久消費財(自動車、家具、家電等)<br>購入費用の支出があったから。 | 25.7 |
| 4 こどもの教育費用、結婚費用の支出<br>があったから。         | 36.1 |
| 5 旅行、レジャー費用の支出があった<br>から。             | 8.5  |
| 6 株式、債券価格の低下により、これ<br>らの評価額が減少したから。   | 8.2  |
| 7 扶養家族が増えたから。                         | 4.6  |
| 8 その他                                 | 12.6 |

(全員にお聞きします。)

問8

あなたのご家庭では、1年後の貯蓄残高は増えていると思いますか、あるいは減っていると思いますか。  
(○は1つ)

1	2	3
増えているだろう。	変わらないだろう。	減っているだろう。
21.0	39.8	39.1

問9

あなたのご家庭では、どのような目的で貯蓄をしていますか。(○は3つまで)

1	病気や不時の災害のときに備えるため。	73.3
2	こどもの教育資金にあてるため。	33.0
3	こどもの結婚資金にあてるため。	12.6
4	住宅（土地を含む）の取得または増改築などの資金にあてるため。	19.0
5	老後の生活資金にあてるため。	55.3
6	耐久消費財（自動車、家具、家電等）の購入資金にあてるため。	10.4
7	旅行、レジャーの資金にあてるため。	11.8
8	納税資金にあてるため。	4.2
9	遺産として子孫に残してやりたいから。	2.8
10	とくに目的はないが、貯蓄していれば安心なため。	24.5
11	その他	2.5

問10

あなたのご家庭では、現在どのくらいの貯蓄残高を目標にしていますか。下表に数値をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
貯蓄目標残高		2	3	0	1

問11

現在のような金利情勢の下で、お宅では、これまでに、貯蓄に関してどのような行動をとられましたか。  
(○はいくつでも)

1	少しでも利息・配当収入が増えるように、運用している貯蓄商品をより高利のものに預け替えた。	14.0
2	先行きの金利変化を予想して、短期（または長期）の貯蓄商品に預け替えた。	9.4
3	利息・配当収入が少なかったので、消費のために貯蓄を取り崩した。	12.5
4	貯蓄商品による運用を手控え、とりあえず手持ち資金として現金で持つことにした。	4.6
5	とくに何もしなかった。	64.5
6	その他	3.5

問12

あなたのご家庭では、主取引金融機関を決める場合、どのような理由から選びますか。

(○は3つまで)

1	近所に店舗やATM（現金自動預け払い機）があり便利だから。	73.8
2	店舗網が全国的に展開されているから。	26.9
3	金融商品の品揃えが豊富で選択の幅が広いから。	3.4
4	より収益性の高い金融商品を販売しているから。	4.0
5	金融アドバイザーとしての相談窓口が充実しているから。	4.6
6	経営が健全で信用できるから。	39.0
7	勧誘員が熱心で印象が良いから。	9.1
8	テレビCM、ポスター、キャラクター商品などの印象が良いから。	1.0
9	その他	11.0

問13

(a) 預金者の保護を目的とした「預金保険制度」といった制度があります。この制度によって、原則として

1 金融機関につき預金者1人当たり元本1,000万円までが保証されています。

あなたはこの制度をご存じですか。(○は1つ)

1	2	3
内容まで知っている。	見聞きしたことはある。	全く知らない。
17.1	50.0	32.9

(b) あなたは、ご自分の貯蓄などをより安全なものにするため、何かなさいましたか。(○はいくつでも)

1	貯蓄商品の安全性に関する情報を収集した。	10.3
2	経営内容がより健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えた。	15.1
3	預金保険が適用される商品に預け替えた。	2.3
4	1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散した。	7.9
5	現金で持つことにした。	3.4
6	何もしていない。	68.4
7	その他	2.4

(c) また、今後、ご自分の貯蓄などをより安全なものにするため、何かなさりたいと思いますか。

(○はいくつでも)

1	貯蓄商品の安全性に関する情報を収集したいと思う。	28.3
2	経営内容がより健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えたいと思う。	27.9
3	預金保険が適用される商品に預け替えたいと思う。	11.2
4	1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散したいと思う。	17.4
5	現金で持ちたいと思う。	4.2
6	何もしないと思う。	38.5
7	その他	2.9

## 問14

(a) 金融商品の選択に関する「自己責任」という考え方について、どのように受け止めますか。運用する金融商品(A～F)を具体的に考えて、もっとも近い考え方を選んでください。

- 1 自分で選んだ金融商品については、自分で責任を持つのは当然である。
- 2 どちらとも言えない。
- 3 自分で選んだ金融商品だから自分で責任を持てと言われても困る。

(○はそれぞれ1つ)

	自分で責任を持つのは当然である	どちらとも言えない	自分で責任を持てと言われても困る
A 預金(外貨預金は除く)	27.3	25.2	46.6
B 外貨預金	41.6	42.2	14.5
C 株式	55.5	30.3	12.6
D 公社債投信(MMF、中国ファンド等)	34.3	44.7	19.2
E 保険(掛け捨て型を除く)	22.0	32.0	44.8
F 金融自由化の過程で開発された新しいタイプの金融商品(いわゆるハイテク商品やデリバティブ商品)	39.2	44.7	14.3

(b) また、今後、取り引きを始めたり、取り引きを増やしてみたいのは、どの金融機関ですか。

(○は2つまで)

- |                           |      |            |      |
|---------------------------|------|------------|------|
| 1 銀行                      | 19.1 | 5 保険会社     | 3.8  |
| 2 協同組織金融機関(信用金庫、信用組合、農協等) | 10.3 | 6 海外の金融機関  | 9.7  |
| 3 郵便局                     | 50.2 | 7 その他の金融機関 | 0.9  |
| 4 証券会社                    | 4.8  | 8 とくになし    | 31.5 |

## 問15

あなたは、金融機関のサービスについて、現在不満に思っていたり、今後改善してほしいと期待しているものがありますか。(○はいくつでも)

- |   |      |
|---|------|
| 1 新しい貯蓄商品やサービスの内容を、もっとわかりやすく説明してほしい。                              | 28.6 |
| 2 総合的な資金管理について、きめ細かいアドバイスがほしい。                                    | 15.1 |
| 3 機械化の進展に伴いおろそかになってきている顧客とのコミュニケーションを、もっと図ってほしい。                  | 14.4 |
| 4 機械に弱い高齢者等が気軽に相談できる専門の相談窓口を、設置してほしい。                             | 21.9 |
| 5 ホームバンキングやホームトレードに関するサービスを、充実してほしい。                              | 3.2  |
| 6 平日の窓口の営業終了時刻を、延長してほしい(例えば、現行の3時を5時に変更するなど)。                     | 44.9 |
| 7 土・日・祭日にATM(現金自動預け払い機)の機能をフル稼働させるとともに、稼働時間帯も拡大してほしい。             | 42.9 |
| 8 窓口等での待ち時間を、もっと短くしてほしい。  | 27.6 |
| 9 景品(ティッシュペーパー、ラップ等)にコストをかけるよりも、預金金利や貸出金利の面で顧客に有利なレートサービスを、してほしい。 | 45.4 |
| 10 低利の個人ローン(教育ローン等)を、拡充してほしい。                                     | 20.0 |
| 11 融資にあたっては、担保物件が乏しくても、人物やプロジェクトの質を見極めながら、弾力的に対応してほしい。            | 14.5 |
| 12 金融機関の業務に限らず金融や税金など暮らしに密着した情報を、幅広く提供してほしい。                      | 20.1 |
| 13 金融機関の経営内容(業務状況、財務内容、収益構造等)を、もっとわかりやすく開示してほしい。                  | 30.4 |

問16

ビッグバンは、わが国における金融面での規制を国際的な水準にまで緩和していくことで、市場原理の働きを高め、自由かつ透明で信頼できる金融市場を目指す一連の改革です。このビッグバンについて、お尋ねします。

(a) あなたは、ビッグバンを知っていますか。(○は1つ)

1  
知っている。  
52.3



2  
知らない。  
47.6



問17にお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(b) あなたは、ビッグバンにより、どのようなことが実現すると思いますか。イメージで結構ですので、以下の中からお答えください。(○は3つまで)

- |   |  |      |
|---|--|------|
| 1 | 金融商品の開発が進み、金融商品の種類が増えること。                    | 48.0 |
| 2 | 金融商品の開発が進み、収益性が高く、これまでよりリスクの小さい商品が登場すること。    | 9.7  |
| 3 | これまで取引先が制限されていた金融商品について、多くの金融機関が取り扱うようになること。 | 50.4 |
| 4 | それぞれの金融機関が自由に金利を設定し、金融機関によって金利に差が生じるようになること。 | 61.3 |
| 5 | 金融機関の店舗サービスが向上し、引き出しや預け入れなどが好きな時間に自由にできること。  | 20.5 |
| 6 | 手数料を大幅に引き下げる金融機関が数多く現れること。                   | 25.5 |
| 7 | あまり大きな変化は生じない。                               | 12.2 |
| 8 | その他  | 2.4  |

(c) 今後、ビッグバンが進んでいくことによって、どんなことが予想されますか。(○は1つ)

- |   |   |      |
|---|---|------|
| 1 | 金融機関の競争を通じて、日本経済が活性化するなど、わたしたちの生活に好ましい影響を与える。                     | 29.0 |
| 2 | 金融機関の競争が激化した結果、金融機関の経営内容に格差が広がったり、金融商品が複雑になったりして、わたしたちの生活に負担がかかる。 | 37.7 |
| 3 | わたしたちの生活への影響はほとんどない。  | 14.8 |
| 4 | わからない。  | 17.8 |



(全員にお聞きします。)

## 問17

(a) 外貨預金や外貨建債券などの外貨建ての金融商品の保有経験についてお尋ねします。(○は1つ)

1  
これまで保有したことがある。  
3.3

2  
これまで保有したことがない。  
96.5

(c) へお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(b) 現在、保有している外貨建金融商品の残高はどのくらいですか。記入時点での為替相場にて円換算のうえ、下表に数値をご記入ください(以前保有していて、現在保有していない場合は、金額を「0」とご記入ください)。

	億	千万	百万	十万	万円	
現在の外貨建金融商品残高合計			1	7	6	100.0
うち外貨預金				1	2	22.0
外貨建投資信託				7	7	47.6
外貨建債券(注)				8	5	50.8
外貨建株式					1	7.9
その他の外貨建金融商品					2	6.3

(注) デュアルカレンシー債(二重通貨建債券)を含みます。

(c) また、あなたは、外貨建ての金融商品を今後保有したいと思いますか。(○は1つ)

1  
保有してみたい。  
10.1

2  
保有したくない。  
35.4

3  
わからない。  
54.4

(e) へお進みください。

(e) へお進みください。

(前問で2と回答した人にお聞きします。)

(d) あなたが「保有したくない」のは、なぜですか。主な理由をお答えください。(○は2つまで)

- |   |      |
|---|------|
| 1 利回りは高いけれども、為替相場の変動によって思わぬ損失を被るから。             | 47.1 |
| 2 利回りは高いけれども、外貨の取り扱いに係る手数料がかかり、結局収益性はあまり高くないから。 | 13.7 |
| 3 取り扱っている先が少ないから。                               | 5.9  |
| 4 商品内容が難しいこともあって、よくわからないから。                     | 60.6 |
| 5 その他   | 6.3  |

(全員にお聞きます。)

(e) 平成10年4月に新しく外国為替法が施行されたことにより、外為取引が自由化されました。あなたは、自由な外貨取引によって可能となることのうち、どの内容に興味を持ちますか。(○はいくつでも)

- |  |      |
|--|------|
| 1 海外の金融機関に口座を開設したり、さまざまな海外の金融商品で運用したりすることができる。 | 16.2 |
| 2 外貨預金の決済口座を設けることで、海外商品が通信販売等で買いやすくなる。         | 9.2  |
| 3 海外旅行などで持ったドルなどの外国通貨を、円に替えなくても、外貨のまま預金できる。    | 23.0 |
| 4 外貨を取り扱う先が増えて、競争原理が働き、手数料を引き下げる先も増えてくる。       | 13.7 |
| 5 興味はない。                                       | 59.4 |
| 6 その他  | 2.0  |

#### 問18

お金に関する投資や商品の中で、「著しい高収益かつ元本保証」をうたったもの(いわゆる悪徳商法)の購入について、お聞きます。

(a) あなたのご家庭では、こうした投資や商品をこれまで購入したことがありますか。(○は1つ)

- |            |            |
|------------|------------|
| 1          | 2          |
| 購入したことがある。 | 購入したことはない。 |
| 2.9        | 97.1       |

(b) あなたは、こうした投資や商品について、どう思いますか。(○はいくつでも)

- |                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| 1 元本保証があつて損はしないと説明があれば購入してもよい。      | 8.5  |
| 2 著しい高収益が得られると説明があれば購入してもよい。        | 0.8  |
| 3 有名人、識者が広告等に登場していれば購入してもよい。        | 0.1  |
| 4 親しい友人、知人が勧めていれば購入してもよい。           | 1.4  |
| 5 「著しい高収益かつ元本保証」をうたった商品は購入するつもりはない。 | 88.0 |

#### 問19

(a) あなたが取引している民間金融機関の経営内容について、どのように感じていますか。(○は1つ)

- |                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| 1 経営内容は健全だと思っているので、不安はない。           | 27.9 |
| 2 多少経営内容は悪化していても、経営破綻する不安はないと思っている。 | 39.4 |
| 3 経営内容が悪化し、経営破綻もあるのではと、不安に思っている。    | 24.8 |
| 4 民間金融機関との取引はないので関係ない。              | 7.0  |

(b) 昨年末にかけて金融機関の経営破綻が相次ぎましたが、これから2～3年の間の金融機関全般の状況についてはどのようにみていますか。(○は1つ)

1	2	3
落ち着きを取り戻すとみている。	現状と変わらない状況が続くとみている。	さらに混乱するとみている。
12.5	47.7	39.4

(c) あなたは、ご自分が取引する民間金融機関の経営内容について調べたことがありますか。(○は1つ)

1	経営内容を確認したことがある。	7.3
2	経営内容を確認したいと思っても、確認の方法がわからないので、確認していない。	34.5
3	経営内容を確認したいと思っても、経営に関する情報が不足しているので、確認していない。	28.4
4	経営内容を確認しようとは思わない。	29.5

#### 問20

(a) あなたの家計(家族全体)の過去1年間の収入支出それぞれについて、下表の該当する欄に金額をご記入ください。

		億	千万	百万	十万	万円
収入 (+)	年間手取り収入<税引後>(注) a			5	7	6
	貯蓄金取り崩し額 b				5	3
	新規借入金額 c				4	4
	土地住宅売却金額 d				1	3
支出 (-)	年間貯蓄額 e				8	0
	年間借入金返済額 f				6	4
	うち住宅ローン返済額				4	3
	土地住宅購入費用 g				5	2
	消費支出 (a+b+c+d-e-f-g)			4	9	0

(注) 年間手取り収入とは、就業に伴う収入、年金、不動産賃貸収入、利息収入等の税引後収入。

(b) あなたの家計では、1年前と比べて現在の手取り収入はどうでしたか。(○は1つ)

1	2	3
増えた。	変わらない。	減った。
19.7	46.1	34.1

(c) また、1年後の手取り収入をどうみていますか。(○は1つ)

1	2	3
増えるとみている。	変わらない。	減るとみている。
14.6	50.8	34.5

問21

あなたの家計では、過去1年間の消費支出をその前年と比べて増やしましたか、あるいは減らしましたか。  
(○は1つ)

1  
消費支出を増やした。  
22.5

2  
消費支出を変えていない。  
51.2

3  
消費支出を減らした。  
26.2

問23へお進みください。

問22

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(a) 次の選択肢の中から、消費支出を増やした主な理由を選んでください。(○は3つまで)

- |    |                                     |      |
|----|-------------------------------------|------|
| 1  | 手取り収入が増えたから。                        | 8.9  |
| 2  | 手取り収入は増えなかったが、先行きは増えていくとみているから。     | 3.5  |
| 3  | 1～2年前よりも借入金の返済が進んで、消費にまわせる金額が増えたから。 | 7.2  |
| 4  | 物品などの購入にあたって、ローンが組みやすくなったから。        | 4.1  |
| 5  | 物やサービスの値段が安くなったから。                  | 1.7  |
| 6  | 欲しいと感じる物やサービスが増えてきたから。              | 10.6 |
| 7  | 資産価格が上昇して、支出の増加に寛容になったから。           | 2.0  |
| 8  | こどもの成長や家族構成員の変化に伴い、家族に要する費用が増えたから。  | 73.3 |
| 9  | 冠婚葬祭など付き合いごとが増えたから。                 | 34.0 |
| 10 | その他                                 | 16.7 |

(前問で3と回答した人にお聞きします。)

(b) 次の選択肢の中から、消費支出を減らした主な理由を選んでください。(○は3つまで)

- |    |                                       |      |
|----|---------------------------------------|------|
| 1  | 手取り収入が減ったから。                          | 60.2 |
| 2  | 手取り収入は減らなかったが、先行きは減っていくとみているから。       | 19.3 |
| 3  | 預貯金の利息や配当の金額が減ったから。                   | 22.4 |
| 4  | 1～2年前よりも借入金の返済が増えており、消費にまわせる金額が減ったから。 | 16.5 |
| 5  | 物品などの購入にあたって、ローンが組みにくくなったから。          | 3.6  |
| 6  | 物やサービスの値段が高くなったから。                    | 23.4 |
| 7  | 欲しいと感じる物やサービスが減ってきたから。                | 10.0 |
| 8  | 資産価格が目減りして、支出の増加に慎重になったから。            | 9.8  |
| 9  | こどもの成長や家族構成員の変化に伴い、家族に要する費用が減ったから。    | 16.2 |
| 10 | 将来を展望して、貯蓄にまわす金額を増やしたから。              | 12.3 |
| 11 | その他                                   | 6.6  |

(全員にお聞きします。)

問23

あなたの家計では、今後1年間の消費支出を過去の1年間のそれと比べて増やしますか、あるいは減らしますか。(○は1つ)

1  
消費支出を増やす。  
8.9

2  
消費支出を変えない。  
52.0

3  
消費支出を減らす。  
38.8

## 問24

あなたの家計では、現在、借入金がありますか。ただし、月賦払いの未払金やリボルビング方式(注)借入れによる未払金は対象に含め、1～2か月後に決済するクレジットカード利用ツケ買いによる未払金は除きます。(○は1つ)

(注) リボルビング方式とは、あらかじめ設定した借入金額の利用限度枠内であれば何回でも利用でき、最初に決めた一定額を毎月、返済する借入方式のこと。

1  
借入金がある。  
45.1

2  
借入金がない。  
54.7

問27へお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

## 問25

現在の借入金残高と借入先別内訳をそれぞれ下表にご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
現在の借入金残高合計		1	1	2	3
うち公的金融機関(注1)			4	6	9
民間金融機関(注2)			5	5	3
販売会社、クレジット会社等				2	6
貸金業者(消費者金融会社、質屋)					3
勤務先				4	6
親類、知人				1	9
その他					7

(注1) 住宅金融公庫、年金住宅福祉協会、国民金融公庫、郵便局等。

(注2) 銀行、信金、信組、労金、農漁協、保険会社、住宅金融専門会社等。

また、現在の借入金残高合計のうち、住宅ローン、教育ローン、フリーローン(注)残高をそれぞれ下表にご記入ください。

(注) フリーローンとは、借入金の資金使途が特定されていないローン(カードローンを含む)。

	億	千万	百万	十万	万円
現在の借入金残高合計		1	1	2	3
うち住宅ローン残高			7	9	3
教育ローン残高				1	2
フリーローン残高				7	4

-----> { 上記の合計の  
金額と一致 }

## 問26

あなたは、どのような目的で借入れを行いましたか。

次のうちから借入目的を選び、該当する番号に○印をつけてください。(○は3つまで)

- |    |                                   |      |
|----|-----------------------------------|------|
| 1  | 医療費や災害復旧資金にあてるため。                 | 3.3  |
| 2  | こどもの教育・結婚資金にあてるため。                | 13.4 |
| 3  | 住宅(土地を含む)の取得または増改築などの資金にあてるため。    | 62.6 |
| 4  | 日常の生活資金にあてるため。                    | 9.1  |
| 5  | 耐久消費財(自動車、家具、家電等)の購入資金にあてるため。     | 26.5 |
| 6  | 旅行、レジャーの資金にあてるため。                 | 3.9  |
| 7  | 株式等金融資産への投資資金にあてるため。              | 0.9  |
| 8  | 土地建物(マイホームは除く)等の実物資産への投資資金にあてるため。 | 5.6  |
| 9  | 相続税対策の資金にあてるため。                   | 0.7  |
| 10 | その他                               | 10.5 |

(全員にお聞きします。)

問27

あなたのご家庭では、手持ち現金（銀行券および硬貨）の残高は平均してどのくらいありますか。

百万 十万 万円

	3	4
--	---	---

問28

- (a) あなたは、生活感覚として“経済的な豊かさ”と“心の豊かさ”について、どのように実感していますか。それぞれ下表の各欄の番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	どちらかと言えば、 実感している	どちらかと言えば、 実感していない
経済的な豊かさ	27.9	71.4
心の豊かさ	52.5	46.9

- (b) あなたは、“経済的な豊かさ”を実感するためには、次のうち何が大切だと思いますか。(○は2つまで)

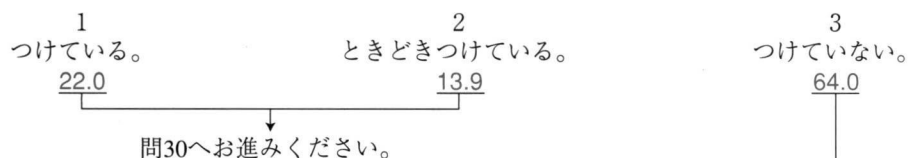
1	マイホームなどの実物資産の取得	20.5	4	消費財購入やレジャー関連消費の	18.3
2	ある程度の額の金融資産の保有	50.2		充実	
3	ある程度の額の年収の実現	61.3	5	その他	5.9

- (c) また、“心の豊かさ”を実感するためには、次のうち何が大切だと思いますか。(○は3つまで)

1	経済的な豊かさ	49.2	6	将来の生活への安心感	37.4
2	趣味の充実	20.0	7	家族とのきずな	46.9
3	仕事の充実	18.4	8	人や社会への貢献	9.1
4	時間的な余裕	21.9	9	その他	1.1
5	健康	72.6			

問29

- (a) 家計簿の記帳についてお尋ねします。  
あなたは、家計簿をおつけになっていますか。(○は1つ)



(前問で3と回答した人にお聞きします。)

- (b) 次のうち該当する番号に○印をつけてください。(○は1つ)

1	2
以前はつけていたが、今はつけていない。	これまでに全くつけたことがない。
50.1	49.0

(全員にお聞きします。)

問30

(a) あなたは、将来のことを考えて生活設計を立てていますか。(○は1つ)

1 生活設計を立てている。	2 現在生活設計を立てて いないが、今後は立てる つもりである。	3 現在生活設計を立てて いないし、今後も立てる つもりはない。
32.8	43.7	23.3

問31へお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(b) 何年くらい先まで考えて生活設計を立てていますか。(○は1つ)

1 1～2年先まで	2 3～5年先まで	3 10年先まで	4 20年先まで	5 20年以上先まで
7.3	29.1	39.9	13.2	10.3

(全員にお聞きします。)

問31

あなたのご家庭では、現在どのような住居にお住まいですか。(○は1つ)

持ち家あり	1	ご自身が購入した家屋マンション	53.3
	2	相続または贈与を受けた持家	20.3
持ち家なし	3	同居している親または親族の家	4.4
	4	民間の賃貸マンション・アパート、 借家	11.9
	5	公団公営の賃貸アパート	5.2
	6	官舎、社宅	3.9
	7	間借、その他	0.8

問34・問35へお進みください。

(前問で3～7と回答した人にお聞きします。)

問32

マイホームを取得していないご家庭にお尋ねします。

あなたのご家庭では、世帯主の方が何歳くらいの時にマイホームを取得する予定ですか。(○は1つ)

1	20歳代	0.7
2	30歳代	10.1
3	40歳代	10.6
4	50歳代	4.8
5	60歳以上	2.1
6	親からの相続等によるので、いつになるかわからない。	19.4
7	マイホームの取得については目下のところ考えていない。	34.3
8	将来にわたりマイホームを取得する考えはない。	16.2

問33

近くマイホームを取得する予定があるご家庭にお尋ねします。

あなたのご家庭がマイホームを取得するのに必要な資金の総額はどのくらいですか。また、その資金をどのように調達する予定ですか。

それぞれについて、下表に金額をご記入ください。なお、買い換えの場合は、新旧物件の価格差ではなく、新規取得物件の方の総額をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
必要資金総額		3	3	8	0
うち自己資金		1	1	0	9
借入金		2	2	7	1

(世帯主の年齢が満60歳未満のご家庭にお聞きます。)

(世帯主の年齢が満60歳以上のご家庭にお聞きます。)

問34

あなたのご家庭では、老後の生活費として、毎月最低どれくらい必要と思いますか(現在の物価水準を基準にお答えください)。

百万	十万	万円
	2	7

また、老後の生活資金として、世帯主の年金支給時に準備しておけばよい貯蓄残高は、最低どれくらいだとお考えですか。

	億	千万	百万	十万	万円
老後の生活資金		2	2	4	4

問35

あなたのご家庭では、生活費として、毎月最低どれくらい必要ですか。

百万	十万	万円
	2	7

(全員にお聞きます。)

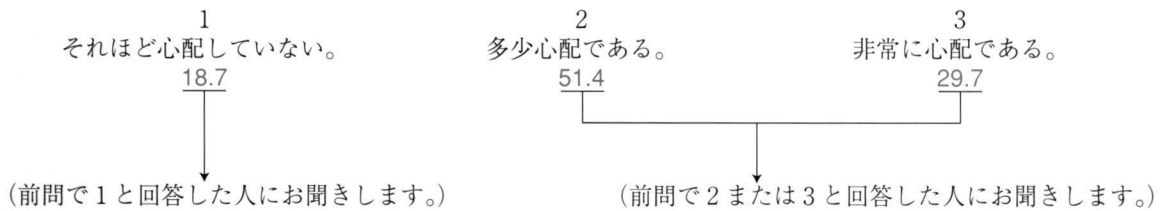
問36

(a) 現在の暮らし向きについて、どのようにお考えですか。(○は1つ)

- |                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 1 家計にそこそこゆとりがある。                | 10.1 |
| 2 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている。 | 55.5 |
| 3 家計にゆとりがなく、やや苦しい。              | 23.5 |
| 4 家計のやりくりが苦しい。                  | 10.7 |



- (b) また、老後の暮らし（高齢者は、今後の暮らし）について、経済面でどのようになるとお考えですか。  
（○は1つ）



問37

それほど心配していない理由は、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

1	十分な貯蓄があるから。	8.0
2	退職一時金があるから。	23.6
3	年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険があるから。	68.8
4	生活の見通しが立たないほど物価が上昇するとは考えられないから。	18.7
5	十分な貯蓄はないが、老後に備えて着々と準備（貯蓄など）しているから。	33.5
6	再就職により収入が得られる見込みがあるから。	8.7
7	不動産収入（家賃、地代等）が見込めるから。	10.0
8	こどもなどからの援助が期待できるから。	7.7
9	親などからの遺産が見込まれるから。	5.0
10	その他	10.1

問38

多少心配である、非常に心配である理由は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

1	十分な貯蓄がないから。	72.8
2	退職一時金が十分ではないから。	25.8
3	年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険が十分ではないから。	67.5
4	生活の見通しが立たないほど物価が上昇することがあり得ると考えられるから。	24.0
5	現在の生活にゆとりがなく、老後に備えて準備（貯蓄など）していないから。	37.0
6	再就職により収入が得られる見込みがないから。	16.6
7	家賃の上昇により生活が苦しくなると見込まれるから。	2.9
8	マイホームを取得できる見込みがないから。	3.3
9	こどもなどからの援助が期待できないから。	16.3
10	その他	5.3

(全員にお聞きします。)

問39

年金について、お聞きします。

- (a) 年金（公的年金・企業年金を含み、個人年金は除きます）で老後の必要資金をまかなえると思いますか。  
(○は1つ)

1  
年金でさほど不自由なく  
暮らせる。

4.4

2  
ゆとりはないが、日常生活  
費程度はまかなえる。

26.2

3  
年金だけではゆとりが  
ない。

69.4

問40へお進みください。

(前問で2または3と回答した人にお聞きします。)

- (b) その理由についてどのようにお考えですか。主な理由をお答えください。(○は2つまで)

- |                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 1 物価上昇等により費用が増えていくとみているから。      | 33.9 |
| 2 年金が支給される年齢が引き上げられるとみているから。    | 33.1 |
| 3 年金が支給される金額が切り下げられるとみているから。    | 48.4 |
| 4 高齢者への医療・介護費用の個人負担が増えるとみているから。 | 54.3 |
| 5 その他                           | 5.1  |

- (c) 不足分をどうやってまかなおうとお考えですか（または、現在まかっていますか）。主な対応をお答えください。(○は2つまで)

- |                     |      |                        |      |
|---------------------|------|------------------------|------|
| 1 年金支給後も働いてまかなうつもり。 | 44.2 | 4 年金支給後の生活水準を引き下げるつもり。 | 31.7 |
| 2 貯蓄でまかなうつもり。       | 31.0 | 5 まだ、先のことなので考えていない。    | 31.7 |
| 3 こどもからの援助でまかなうつもり。 | 4.0  | 6 その他                  | 5.7  |

(世帯主の年齢が満60歳以上のご家庭にお聞きします。)

問40

現在の生活費は、どのような収入源に拠っていますか。(○は3つまで)

- |                 |      |                  |     |
|-----------------|------|------------------|-----|
| 1 就業による収入       | 49.3 | 6 不動産収入（家賃、地代等）  | 7.5 |
| 2 公的年金          | 74.4 | 7 こどもなどからの援助     | 9.6 |
| 3 企業年金、個人年金、保険金 | 20.1 | 8 国や市町村などからの公的援助 | 1.3 |
| 4 貯蓄の取り崩し       | 22.5 | 9 その他            | 4.5 |
| 5 利子・配当所得       | 2.9  |                  |     |

(お子さんがいるご家庭にお聞きます。)

問41

あなたのご家庭では、お子さんに渡しているこづかいは、月平均で1人当たりどのくらいの金額ですか。  
学齢区分ごとに、下表に金額をご記入ください。

	十	万	千	百	十	円
小学生(1・2年)			1	0	3	8
小学生(3・4年)			1	1	2	4
小学生(5・6年)			1	4	3	5
中学生			3	0	4	9
高校生			6	7	5	6

問42

あなたのご家庭の世帯人数は、自分も含めて何人ですか。(○は1つ)

1	2	3	4	5	6
2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
24.0	22.9	27.7	14.3	7.3	3.8

問43

世帯主の方は、満年齢で何歳ですか。(○は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳以上
3.5	13.7	24.7	26.8	12.5	9.8	9.1

問44

世帯主の方のご職業は、次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
農林漁業者	自営商工 サービス業主	事務系職員	労務系職員	管理職	自由業	その他
5.3	17.5	14.5	20.2	13.4	3.8	24.8

問45

ご家族の就業状況は、次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

- |   |                      |      |
|---|----------------------|------|
| 1 | 世帯主およびその家族ともに働いていない。 | 10.3 |
| 2 | 世帯主のみが働いている。         | 33.2 |
| 3 | 世帯主とその配偶者が働いている。     | 39.4 |
| 4 | その他                  | 16.9 |

問46

あなたの保有する貯蓄額がどのくらいあるか、もう一度お答えください。(○は1つ)

- |        |           |          |       |
|--------|-----------|----------|-------|
| 1      | 2         | 3        | 4     |
| 1千万円未満 | 1千万円～3千万円 | 3千万円～1億円 | 1億円以上 |
| 64.9   | 23.2      | 6.5      | 0.3   |

## (クロスデータ)

ビッグバンの認知度【問16(a)】、ビッグバンで実現すると思われること【問16(b)】

		総数 (回答世帯)	知 つて い る	金 融 商 品 の 種 類 が 増 える こ と	取 益 性 が 高 く 、 リ ス ク の 小 さ い 商 品 の 登 場	取 扱 先 が 限 定 さ れ た 商 品 を 多 く の 金 融 機 関 が 取 り 扱 う こ と	金 利 に 差 が 生 じ る よ う に な る こ と	金 融 機 関 に よ っ て 金 利 に 差 が 生 じ る よ う に な る こ と	引 き 出 し や 預 け 入 れ に な る こ と	多 く 現 れ る こ と	手 数 料 を 大 幅 に 引 き 下 げ る こ と	生 じ ら な い あ ま り 大 き な 変 化 は な い	そ の 他	知 ら な い
全 国		(4,287) 100.0	52.3 100.0	48.0	9.7	50.4	61.3	20.5	25.5	12.2	2.4			47.6
貯蓄保有額	500万円未満	(986)	48.2	42.3	8.6	44.6	55.6	21.3	25.5	14.3	4.4			51.8
	1,000万円未満	(859)	54.6	49.0	9.0	49.9	64.6	23.5	25.6	10.4	1.7			45.4
	1,500万円未満	(496)	57.7	49.7	9.8	54.2	61.5	22.0	25.2	10.8	1.0			42.3
	2,000万円未満	(300)	60.3	53.0	9.9	58.0	59.7	18.8	29.3	11.6	1.1			39.7
	3,000万円未満	(290)	65.2	55.0	10.6	56.6	71.4	19.6	23.3	8.5	0.5			34.8
	3,000万円以上	(337)	70.3	58.2	13.1	56.5	69.2	20.3	26.2	10.1	2.1			29.4
世帯主年齢	20歳代	(148)	43.2	46.9	12.5	39.1	46.9	21.9	21.9	6.3	4.7			56.8
	30歳代	(587)	60.5	42.8	6.8	47.9	54.1	23.4	22.3	16.3	3.4			39.5
	40歳代	(1,060)	55.6	50.1	8.7	53.8	63.5	21.1	25.6	9.8	1.5			44.3
	50歳代	(1,148)	54.2	50.6	9.0	53.4	63.8	21.2	23.5	11.1	1.9			45.8
	60歳代	(954)	48.1	49.0	12.9	47.9	64.9	16.1	31.8	13.7	2.6			51.9
	70歳以上	(390)	39.7	39.4	12.3	42.6	54.8	20.6	23.9	14.2	3.2			60.3
選択基準	安全性を重視	(2,007)	58.3	50.2	9.4	52.0	64.3	20.6	25.8	10.9	2.1			41.6
	収益性を重視	(569)	62.9	51.4	9.8	55.3	64.5	19.0	26.8	10.1	1.4			37.1
	流動性を重視	(1,117)	43.6	44.6	9.9	46.2	57.9	21.4	23.6	14.0	2.5			56.4

ビッグバンの進展によって予想されること【問16(c)】

		総数（ビッグバンを知っている世帯）	日本経済が活性化するなど、好ましい影響を与える	経営内容の格差拡大や金融商品の複雑化を招き、負担がかかる	わたしたちの生活への影響はほとんどない	わからない
全 国		(2,244) 100.0	29.0	37.7	14.8	17.8
貯蓄保有額	500万円未満	(475)	24.8	38.1	18.5	17.5
	1,000万円未満	(469)	31.3	37.5	14.3	16.6
	1,500万円未満	(286)	29.4	40.6	14.3	15.7
	2,000万円未満	(181)	31.5	35.9	16.0	16.0
	3,000万円未満	(189)	28.0	46.0	11.6	13.2
	3,000万円以上	(237)	38.4	38.8	8.0	14.3
世帯主年齢	20歳代	(64)	17.2	46.9	17.2	17.2
	30歳代	(355)	22.5	40.0	16.1	21.1
	40歳代	(589)	26.1	42.4	12.7	18.2
	50歳代	(622)	30.9	35.4	15.0	17.8
	60歳代	(459)	34.4	32.9	17.4	14.2
	70歳以上	(155)	36.1	34.2	9.7	20.0
貯蓄の 選択基準	安全性を重視	(1,171)	27.8	39.4	13.7	18.1
	収益性を重視	(358)	38.3	38.0	11.7	11.7
	流動性を重視	(487)	27.5	35.5	17.9	18.9

外貨建て金融商品の保有経験【問17(a)】、保有意思【問17(c)】、保有したくない理由【問17(d)】

		総数 (回答世帯)	これまで 保有したこ とがある	これまで 保有したこ とがない	保有 してみたい	保有 したくない	相場変動によ って損 失を被るから	外貨の取 扱手数料が 高いから	取扱先が 少ないから	商品内 容が難し いか	その他	わ か ら な い
全 国		(4,287) 100.0	3.3	96.5	10.1	35.4 100.0	47.1	13.7	5.9	60.6	6.3	54.4
貯蓄保有額	500万円未満	(986)	1.4	98.6	8.0	32.5	42.2	12.2	5.9	61.3	7.8	59.5
	1,000万円未満	(859)	2.3	97.6	10.5	36.2	52.4	11.3	4.8	61.4	5.5	53.2
	1,500万円未満	(496)	3.0	97.0	10.5	38.7	49.5	14.6	6.3	66.7	1.6	50.8
	2,000万円未満	(300)	4.3	95.3	17.0	36.3	60.6	13.8	8.3	56.0	5.5	46.7
	3,000万円未満	(290)	8.3	90.7	12.1	40.3	54.7	25.6	4.3	55.6	5.1	47.6
	3,000万円以上	(337)	12.5	87.5	22.6	37.7	63.8	24.4	5.5	51.2	2.4	39.5
世帯主年齢	20歳代	(148)	0.0	100.0	6.1	27.0	47.5	17.5	2.5	60.0	7.5	66.9
	30歳代	(587)	2.2	97.8	13.5	32.4	57.4	13.7	4.7	50.5	6.8	54.0
	40歳代	(1,060)	3.0	96.8	11.4	34.2	47.8	15.2	7.5	60.2	6.6	54.3
	50歳代	(1,148)	3.0	96.9	9.6	35.2	46.8	11.6	6.2	59.2	6.7	55.1
	60歳代	(954)	5.2	94.5	9.6	37.7	46.1	14.7	4.7	64.4	5.3	52.4
	70歳以上	(390)	3.1	96.2	5.6	41.3	36.6	12.4	6.8	68.3	6.2	53.1
選択基準	安全性を重視	(2,007)	3.0	97.0	10.2	39.0	53.5	16.0	5.6	59.5	3.8	50.8
	収益性を重視	(569)	9.8	89.6	22.0	27.9	53.5	15.1	8.2	57.9	4.4	50.1
	流動性を重視	(1,117)	1.9	98.0	6.4	36.0	39.6	10.4	4.5	63.4	9.0	57.5

外為取引の自由化で興味を持つ内容【問17(e)】

		総数 (回答世帯)	海外の金融機関に口座開設したり、資本金を海外に運用できること	外貨預金や外貨の取扱いが容易になること	海外旅行で使う外貨をそのまま預金できること	外貨の取扱先が増えること	外貨の取扱手数料が増えること	興味はない	その他
全 国		(4,287) 100.0	16.2	9.2	23.0	13.7	59.4	2.0	
貯蓄保有額	500万円未満	(986)	14.4	9.9	22.3	12.8	60.8	1.5	
	1,000万円未満	(859)	15.0	10.7	24.7	13.6	57.5	1.6	
	1,500万円未満	(496)	17.1	9.1	25.0	16.5	55.0	2.6	
	2,000万円未満	(300)	23.0	12.3	27.3	17.7	52.0	1.7	
	3,000万円未満	(290)	21.4	4.8	26.9	14.8	55.5	2.4	
	3,000万円以上	(337)	27.3	8.6	32.0	21.4	46.3	1.8	
世帯主年齢	20歳代	(148)	16.9	11.5	29.7	10.1	50.7	1.4	
	30歳代	(587)	20.8	14.0	23.9	15.2	52.0	1.5	
	40歳代	(1,060)	18.8	9.9	24.2	15.7	53.7	2.3	
	50歳代	(1,148)	15.9	9.0	25.0	12.5	59.2	2.4	
	60歳代	(954)	13.2	6.4	21.2	14.2	65.7	1.7	
	70歳以上	(390)	9.7	6.4	14.6	9.7	74.4	1.8	
選択基準	安全性を重視	(2,007)	17.3	10.0	25.6	14.7	56.6	1.9	
	収益性を重視	(569)	27.9	11.1	25.1	18.1	46.4	1.8	
	流動性を重視	(1,117)	11.2	7.4	20.7	10.9	66.4	1.7	

## 取引金融機関の経営内容に対する認識【問19(a)】、今後の金融情勢に対する認識【問19(b)】

		総数 (回答世帯)	破綻する金融機関が経営 不安はない	経営内容は健全だと 思っている	経営内容は悪化して いる不安はない	経営内容が悪化し、 は、と不安	民間金融機関との取 引はないので関係な い	落ち着きを取り戻す と見ている	現状と変わらな い状態が続くとみ ている	さらに混乱する とみている
全 国		(4,287) 100.0	67.3 100.0	41.5	58.5	24.8	7.0	12.5	47.7	39.4
貯蓄保有額	500万円未満	(986)	65.5	42.9	57.1	26.5	7.3	11.8	49.4	38.4
	1,000万円未満	(859)	72.2	42.3	57.7	22.7	4.7	12.1	46.4	41.2
	1,500万円未満	(496)	70.4	44.4	55.6	25.8	3.6	12.9	47.0	39.7
	2,000万円未満	(300)	70.7	42.0	58.0	24.7	4.0	14.0	45.3	40.7
	3,000万円未満	(290)	71.4	37.7	62.3	26.0	2.1	12.8	49.0	37.6
	3,000万円以上	(337)	70.6	37.4	62.6	26.7	2.7	19.3	37.7	43.0
世帯主年齢	20歳代	(148)	66.2	35.7	64.3	29.1	4.1	9.5	56.1	34.5
	30歳代	(587)	66.1	33.5	66.5	29.1	3.9	7.7	49.9	42.1
	40歳代	(1,060)	68.4	40.8	59.2	25.3	6.0	9.2	48.4	42.3
	50歳代	(1,148)	66.6	41.6	58.4	26.0	6.0	11.2	44.7	43.3
	60歳代	(954)	67.2	44.8	55.2	22.5	9.9	18.0	45.9	35.7
	70歳以上	(390)	69.2	48.9	51.1	17.7	11.8	19.5	52.1	26.9
選択基準 貯蓄の	安全性を重視	(2,007)	71.1	41.1	58.9	24.5	4.1	13.8	46.5	39.5
	収益性を重視	(569)	67.8	38.6	61.4	26.7	5.1	14.4	44.1	40.9
	流動性を重視	(1,117)	68.2	41.7	58.3	23.5	7.3	11.3	50.9	37.4

## 取引金融機関の経営内容の確認【問19(c)】

		総数 (回答世帯)	経営内容を 確認した ことがある	経営内容を 確認した ことがない	経営内容を 確認した 方法がわから ない	経営内容を 確認した 情報不足	経営内容を 確認し ようと思わ ない
全 国		(4,287) 100.0	7.3	92.3 100.0	37.4	30.7	31.9
貯蓄保有額	500万円未満	(986)	5.4	94.3	34.9	27.8	37.2
	1,000万円未満	(859)	8.1	91.5	38.2	31.9	29.9
	1,500万円未満	(496)	8.1	91.7	40.9	33.2	25.9
	2,000万円未満	(300)	9.3	90.7	44.9	33.5	21.7
	3,000万円未満	(290)	12.1	87.9	40.8	39.6	19.6
	3,000万円以上	(337)	13.6	86.4	42.3	37.5	20.3
世帯主年齢	20歳代	(148)	4.1	95.9	43.0	25.4	31.7
	30歳代	(587)	7.3	91.8	40.6	33.2	26.2
	40歳代	(1,060)	7.9	91.8	39.4	31.1	29.5
	50歳代	(1,148)	7.1	92.6	35.8	31.3	32.8
	60歳代	(954)	7.8	92.0	35.8	31.2	33.0
	70歳以上	(390)	6.2	93.3	33.2	25.0	41.8
選択基準 貯蓄の	安全性を重視	(2,007)	8.6	91.3	40.5	34.2	25.3
	収益性を重視	(569)	8.4	91.6	38.8	35.3	25.9
	流動性を重視	(1,117)	6.2	93.4	35.0	26.3	38.7